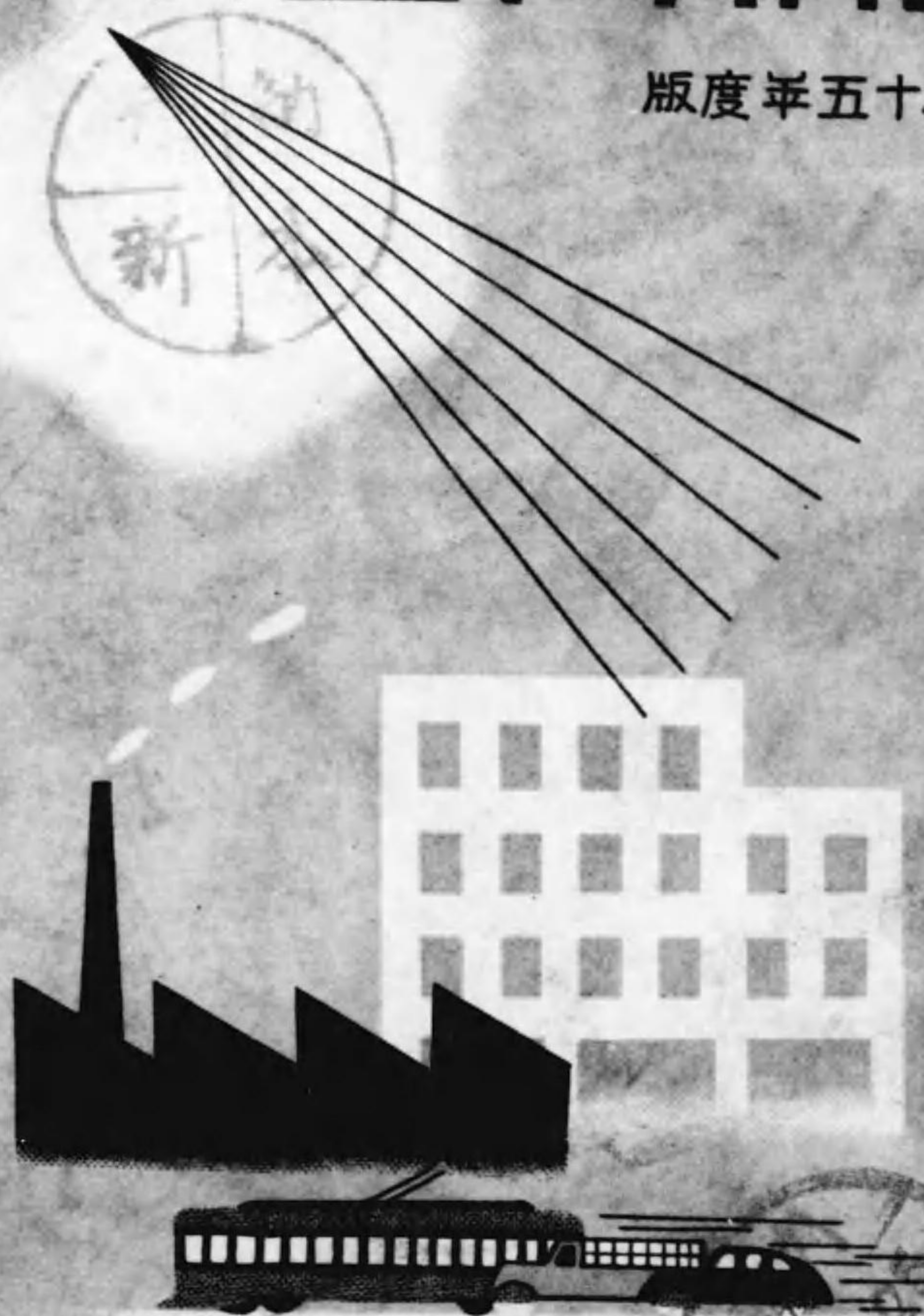


豊橋工商案内

昭和十五年版



豊橋工商會議所



始



登 録
商 標
安 海
味 附 海 苔
乾 海 苔
食 料 品

山安海苔株式會社

東京店 東京市日本橋區室町一丁目一四ノ四
電話(日本橋)六五三番
大阪店 大阪市北區今井町四〇番地
電話(堀川)二五二二番
名古屋店 名古屋市西區小島町一
電話(西)四九六五番
豐橋店 豐橋市魚町五十八番地
電話(一)二一五三番

會社 山安食料品店

本店 豐橋市魚町五十八番地
電話(一)二一五三番
豐川支店 愛知縣寶飯郡豐川町
電話(二)六〇番
安マート 豐橋市神明町交叉点



東邦電力株式會社 豐橋支店

豐橋市松葉町
電話(代表)三一一五番

營業種目

清酒・ビール・焼酎・味淋
雜酒・醬油・清涼飲料水
其ノ他一般酒類

酒類問屋 株式會社川清商店

豐橋市驛前

電話 二三〇六三番

- 一、本會議所は商工會議所事務權限に準據して經營するものであるから、商工業に關する各種の御意見等は何事に依らず申出でられたい。
- 一、商品の産額・集散額・運輸交通及び金融狀態等時々御報道を煩ししたい。
- 一、商工業の狀況・調査材料蒐集等の爲め、本所員訪問の際又は書面で照會した節は特に御便宜を與へられたい。
- 一、諸會社・組合等で業務報告書御作製の節は其の都度御寄贈ありたい。
- 一、商工業家各位で本會議所の照會・紹介又は證明書を要せらるゝ場合は御遠慮なく御申出でられたい。
- 一、商工業に關して紛議を生じた場合は御申出でにより仲裁判斷或は調停和解の勞を採ります
- 一、本會議所には各方面から寄贈に係る商工業に關する有益なる圖書の備付があるから、執務時間中は何時でも閱覽に供します。

豐橋商工會議所

商工會議所の機能

- 一、商工業に関する通報をする事
- 二、商工業に関する仲介又は斡旋をする事
- 三、商工業に関する調停又は仲裁をする事
- 四、商工業に関する證明又は鑑定をする事
- 五、商工業に関する統計の調査及び編纂をする事
- 六、商工業に関する營造物の設置及び管理をする事
- 七、其の他商工業の改善を圖るに必要な施設をする事
- 八、商工會議所は商工業に関する事項に付行政廳に建議する事
- 九、商工會議所は行政廳の諮問に對し答申する事
- 十、行政廳は商工會議所に對し商工業に関する事項の調査を命ずる事を得
- 十一、商工會議所は商工業者に對し商工業に関する統計其の他の調査を爲すため必要な資料の提出を求むる事を得

豊橋商工案内目次

總	說	一
財	沿革・地勢・富力・隣接町村	四
商	業	六
豊橋商工會議所沿革		九
調	査	一三
統	計	
	主要物産(一)・玉絲産額(二)・生絲産額(三)・麻眞田産額(四)・豊橋生繭取 引市場取引高(五)・豊橋倉庫出入貨物(六)・物價と勞銀(七)・豊橋市内組合 銀行營業概況(八)・瓦斯(九)・豊橋乾繭取引所銘柄別清算取引賣買數量(一〇) 市内投宿人員(一一)	
交	通	二九
	交通施設・市民經濟・都市の膨脹・通信狀況・産業生活の充實・其の他統計	
宗	教	三三
	教育	

社 會 事 業

三

土 木 衛 生

三

名 所 舊 蹟

三

今橋城・戸田今川の争闘・家康と織田氏・城主の交代・最後の藩主・吉田城
趾・仁連木城・其の來歴と宗光・重貞の戦死・天正の戦・康長の戦功・豊川
の清流・古名の色々・橋梁移轉・地子御免・貨物の運上・舊幕時代の湊

豊 橋 名 代 行 事

三

笹踊・煙火・鬼祭

附 近 町 村 を 探 ね て

四

豊川・鳳來寺・田口鐵道沿線・豊橋以西・豊橋以東・名鐵渥美線沿線・八名
方面・ハイキングコース

商 工 業 者 人 名

附 録

豊 橋 商 工 業 内

總 說

沿革—地勢—氣象—富力—隣接町村—其の他統計

豊橋市はもと吉田の宿と呼ばれ、東海道五十三次の一として名高かつた。種々異説はあるが、「吉田通れば二階から招く、しかも鹿の子の振袖が」といふ俗謡は此の地から發生したものと云はれてゐる。明治二年六月豊橋と改稱、明治二十二年初めて自治制を實施され、明治三十九年八月市制施行地となつた。

思ふに、吉田と呼んだ頃の戸口は一體どの位有つたであらうかと言ふに、昔から吉田の二十四ヶ町と言つて徳川三百年の間に變りの無かつた如く、戸數にも左程の増減を見なかつた。貞享五年に一千戸のものが、寛永七年に一千十一戸、寶政十年に一千二戸と言ふ狀況である。尤も此の以前即ち寛永四年に大地震があつて、總戸數一千十一戸の内、全潰戸數二百十戸、半潰戸數二百六十六戸で、外に死者十一人も出した事であるからだとしても、極めて其の増加率の少なかつたのは事實である。随つて人口も亦弘化元年に男女合せて五千五百四十五人、其の翌年には十人を減じ、嘉永元年に至つて五千五百十九人と言ふ數字を示して居る。然るに明治二十二年初めて自治制を實施された當時には、今の豊橋の區域は豊橋町・豊橋村

・花田村・豊岡村の一町三ヶ村であつた。其の内豊橋町に屬する戸数は三千五百九十七戸、人口一萬二千三百三十九人を算し、次いで明治二十八年一月に豊橋町と豊橋村の合併が行はれ、明治三十九年七月更に花田・豊岡の二村も之れに合併し、續いて同年八月市制施行地となつたのであるが、當時の戸数は九千九百戸、人口三萬七千六百三十五人であつたが、明治四十一年十一月第十五師團の設置により著しく膨脹し翌四十二年には戸數一萬一千七百五十九戸、人口四萬四千六百八十七人となり、大正九年の國勢調査では人口六萬五千六百六十三人であつたのが、五年後の大正十四年に於ける中間國勢調査では八萬二千三百七十一人、昭和五年十月の第二回國勢調査には九萬八千五百五十五人を數ふるの状態に至つた。其の後師團廢止も大なる影響なく、蠶絲業の著しい發達に依り益々發展の趨勢を示した。

更に昭和七年九月一日より、隣接町村寶飯郡下地町・渥美郡高師村・牟呂吉田村・八名郡下川村・石卷村大字多米を合併し、茲に人口十四萬を擁する大豊橋市が實現するに至つた。

斯くて我が豊橋市は三河の東南に位し、今や北は寶飯郡豊川町・牛久保町・小坂井町、東は八名郡石卷村・静岡縣知波多村・渥美郡二川町、南は渥美郡高豊村・老津村等に境を接し、西は渥美灣に面してゐる。位置は東徑百三十七度二十三分三十秒、北緯三十四度四十五分四十秒である。地勢は概ね平坦であるが、一般的に言へば、東部より西部へ傾斜し、東西及び南北の距離は共に夫々三里二十餘町、總面積六・八一方里を有し、東三平野樞要の地點を占めてゐる。地質は豊川に沿ふた市の低地は概して沖積層であるが市街の大部分は高地で多くは古生層である。氣象は其の年によつて多少の差はあるが、夏は大して暑くな

く、又冬も降雪・結氷を見るは極めて稀であつて、年内を通ずると天氣晴朗・寒暑中和の天恵に富み、全國有數の健康地である。

而して本年三月末現在總戸數は二萬七千五百二十九戸、人口十四萬八千七百五人に達してゐるが、戸口とも益々増加せんとする趨勢を示してゐる。

由來東三河と稱するのは、豊橋市を中心として渥美・八名・寶飯・南設樂・北設樂の一市五郡を言ふので、豊橋の接續町村は渥美郡二川町・高豊村・老津村・寶飯郡豊川町・牛久保町・小坂井町・前芝村・八名郡石卷村である。

財 政

四

豊橋市の市有財産は土地・建物・渡船・有價證券及び現金に分類せられてゐるが、現金有價證券及び渡船の額は極めて少い。

當市に於ける昭和十四年度歳入出豫算は金百七十七萬八千三百十八圓で、之れを前年度に比較すると總豫算高に於て同十四萬四千四百七十七圓の減少である。歳入の主なるものは言ふまでもなく、四割餘を占むる市税である。試みに最近の市税を調べて見ると、昭和十一年度金八十四萬四千五百八十七圓、同十二年度金八十四萬二千九百六十六圓、同十三年度金八十二萬三千三百五十四圓、同十四年度金八十三萬三千十三圓、而して十五年度豫算高は金七十九萬二千三百七十九圓であるが、之れを細別すると

地 租 附 加 税	金七萬一千四百三十八圓
特別地稅附加稅	金六千九百八十一圓
營業收益稅附加稅	金十二萬五百五十二圓
所得稅附加稅	金三萬九百二十八圓
家屋稅附加稅	金三十九萬八千七百九十圓
營業稅附加稅	金一萬六千五百圓
雜種稅附加稅	金十四萬七千五百九十圓

の割合になつて居る。而して昭和十四年末に調査した豊橋市の戸數は二萬七千四百九十九戸、人口十四萬七千八百三十一人であるから十四年度の負擔額は一戸二十八圓八十一錢、一人平均五圓三十六錢に當る。

次に歳出方面で主なるものは、經常部の小學校費金四十一萬四千三百三十圓、役所費金十七萬三千三百四十九圓が多く、臨時部では公債費金四十四萬九千三百八圓、小學校營繕費金八萬三千七百七十三圓、事變關係諸費金三萬三百六十三圓等である。

商工業

六

我が豊橋市内に於ける各種の營業は、生産者・問屋・小賣業を通じて大體百數十種に區別するを得べく其の内最も主なるものを擧ぐれば

玉絲製造業、生絲製造業、麻眞田製造業、繭絲問屋業、繭絲屑物問屋業、再製絹絲業、罐詰製造業、材木商
米穀商、肥料商、呉服商、酒類商、味噌醬油商、履物商、菓子商、洋物雜貨商、足袋商、荒物雜貨商、乾物
商、薪炭商、運送業、家具商、魚類商、海產物商、鶏卵商、文房具商、糸類商、漁網商、青乾物商
等である。

豊橋市を中心とする附近農村の繭の生産高は素晴しく、昨年十四年の生繭の市場出廻高は二十一萬四千五百貫餘、價格金二百十六萬二千七百餘圓、東三乾繭組合への寄託分は七十八萬九千八百貫餘である。製絲業の發展は實に驚くべきもので、就中、玉絲に至つては彼の本場の上州を凌駕し、所謂三州玉絲の特產地として生産高は我が國玉絲總産額の約五割を占め、恰も長野縣諏訪湖畔に於ける生絲業と相並び本邦製絲工業界の二大中心地として内外に知悉せらるゝ處である。東海道豊橋驛の西南に林立せる煙筒は何れも其の工場であつて、地方の俗諺に『吉田鹿の子と昔は言へど今は玉絲日本一』とさへ諺はるゝのである。然し乍ら當市が蠶絲業に於てかゝる發展を見た反面、他の工業にこれと並ぶものがないのは當市の最大缺陷であるが、近時郊外南北兩重要施設と相待つて軍需工業も躍進途上にあり、更に他の大工業を移植して多角工業都市を打ち立てることは誠に緊要事である。

豊橋市に於ける最も重要な工業物産としては第一に玉絲・生絲及繭絲屑物を擧げなければならぬが、之れに次ぐは味噌・醬油・麻眞田・漁網・毛筆・再製絹絲等であつて、其の内麻眞田は我が國産中でも特殊の地位を占め重要輸出品の一つであつて、外國婦人の夏帽専用の材料で製品の優良なるは本邦八個の組合中群を抜いてゐる。亦毛筆の製造も遠く吉田時代より始まつたもので日露戦役後急激に發展し、其の産額も今や廣島を凌駕せんとする勢ひを示し、製品の多くは東京方面へ賣捌かれてゐる。

次いで時局により相當影響を受けてゐるものもあるが、

菓子、酒類、蒲鋒、竹輪、海苔製品、木竹製品、履物、綿布製品、製綿、眞綿、吉田紬、清涼飲料、乾物
甘藷、野菜

等も決して見通すことの出来ない物産である。尙右各種の營業に就き工業方面から見れば、纖維工業・機械器具工業・化學工業・飲食品工業・特殊工業・製作工業・土木建築工業其他工場數及び職工數も却々多數に上つてゐる。更に近來當市に於ても國策代用品の製造行はれ、其の主なるものを擧げて見ると

再製ゴム履物裏、皮革代用網革、ブリキ罐代用利久函、蓄音器針代用硝子針、綿紐代用ダイヤテープ、綿
代用羊毛「羽毛」、松脂油、バルブ綿代用皮革建築資材、合成樹脂製品、鐵筋コンクリート代用竹纖維等

昭和七年の隣接町村合併のために當市の主要物産の數量は何れも激増したが、就中、農業方面に顯著である。合併前の農家數は八百三十九戸に過ぎなかつたが、最近の調査によると四千八百三十七戸、米の生産高の如きは昭和十四年六萬七千六百一十一石、金額二百八十九萬圓餘であつた。更に農産の主なるものとしては米・繭・大麥・小麥・甘藷・大根・瓜類など數へなければなるまい。耕地も激増して、合併前には

七

田一四百三十二町歩、畑一四百一十一町歩なりしものが、合併直後は田一三千八十三町歩、畑一二千六百九十五町歩となつてゐる。之れが機關としては市農會を最高なるものとして、養蠶組合・家禽購買販賣組合農業に關する産業組合がある。

然らば現今商工業方面に於ける機關はどうであるかと言ふと、商工會議所・魚市場・青物市場・繭市場・乾繭取引所・全國乾繭倉庫聯合會豊橋出張所・日本米穀株式會社豊橋米穀市場・小賣市場・公設市場が設立され、何れも目覺しい活動を續けてゐる。

市内に本店を有する諸會社の數は、本年六月末の調査によると、株式會社一二十六、有限會社一、合名會社一五十三、合資會社一二百四十四、合計四百二十四であつて、市内に本店を有する會社の活動を事業別にすると、鑛業三一資本金三百六萬圓、工業百二十六—資本金八百五十三萬八千七百七十圓、商業二百六十一—資本金九百六十五萬四千五百圓、運輸及倉庫業二十七—資本金一千五百十八萬六千五百圓、其の他七一—資本金六十二萬二千五百五十圓、總資本金額三千八百九十一萬四千七百五十圓（拂込二千七百七十六萬八千五百七十圓）である。是れ等の會社は我が豊橋の産業界のために直接間接多大の利益を齎らしてゐることは言ふ迄もないけれど、前述の狀況から觀察するときは、未だ豊橋に於ける資本の活動は甚だ微弱なるを感ずると共に、吾人は將來我が事業界・産業界のために研究を費さなければなるまいと思ふ。尙之れに直接重要な關係を有する金融界の狀況は大野銀行・愛知銀行・名古屋銀行・第一銀行・日本貯蓄銀行・不動貯金銀行・岡崎貯蓄銀行・愛知縣農工銀行の各支店銀行により支配されてゐる。此の外信用組合・金銭貸付業・質屋業・無盡業等數種の機關があつて商工業者及び勞働者のために便益を與へてゐる。

當會議所沿革

當會議所は明治二十六年三月二十五日の創立で、其の區域は當時の渥美郡豊橋町を主心に同郡田原町・同郡豊橋村・寶飯郡下地町・同郡豊秋村・同郡牛久保町・同郡豊川村・同郡前芝村の八ヶ町村で、創立當時は同町大字札木六十三番戸に事務所を置き、次いで大字關屋百五十番戸に移り、其の後明治三十五年五月に同町大字上傳馬丙百十九番戸に移り、從來の區域を變更して更に花田村をも編入したのである。更に明治四十一年十月一日に豊橋市大字西八町百三十七番戸に、大正四年二月十五日同市大字中柴乙百二十番戸、同十年五月六日に同市大字本町二十九番地に、同十五年十月二日花田町石塚四十五番地の五に移轉したのであるが、市の發展に伴つて事務は益々繁劇を加ふると共に、多年の懸案であつた新築の機運熟し、昭和三年一月二十八日の總會に於て同字四十二番地の一に、二ヶ年度に渉る繼續事業として工費六萬圓を以て新築するに決し、四月六日地鎮祭を行ひ、同三十日起工、十月九日落成を告げ、同十六日移轉した。此の間數次の變遷を重ね、隨つて役員の変更も屢々行はれて居る。

而して最近五ヶ年間の經費豫算は、昭和十一年度金一萬六千三百圓、同十二年度金一萬六千五百圓、同十三年度金一萬七千三百圓、同十四年度金一萬九千二百圓、同十五年度金二萬七千八百圓である。

尙、會頭・副會頭の異動は左の如くである。

就職年月日

明治二十六年
同 二十八年四月
同 三十年九月
同 三十三年七月
同 三十三年九月
同 三十四年六月
同 三十四年九月
同 三十四年九月
同 三十五年三月
同 三十八年五月十九日
同 三十八年五月十九日
同 三十九年六月廿五日
同 四十年十月一日
同 四十一年八月三十日

會頭
加藤六藏
三浦碧藏
加藤六藏
三浦碧藏
瀧崎安之助
中尾十郎
原田万九
佐藤市十郎
遠藤安太郎
遠藤安太郎
高橋小十郎
服部彌八

一〇
副會頭
三浦碧藏

遠藤安太郎
杉田久吉
中西廣三郎
鈴木清十郎
大山復次郎
遠藤安太郎
原田万九

明治四十二年五月三日

服部彌八

原田万九

同 四十四年五月五日

田中新

中西廣三郎

大正 二年五月一日

田中新

神戶小三郎

同 六年五月一日

白井直次

中西廣三郎

同 七年十月七日

高橋小十郎

高橋小十郎

同 十年四月十六日

高橋小十郎

服部彌八郎

同 十二年九月廿八日

山本安太郎

山本安太郎

同 十四年四月十六日

福谷元次

河合岩次郎

昭和四年四月十五日	福谷元次	神野三郎	山本安太郎	山本安太郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎
同 五年三月七日	神野三郎	山本安太郎	山本安太郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎	
同 五年三月十八日	神野三郎	山本安太郎	山本安太郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎	
同 八年四月十日	神野三郎	山本安太郎	山本安太郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎	
同 十年四月二十日	河合藤四郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎			
同 十一年九月四日	河合藤四郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎			
同 十二年四月八日	河合藤四郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎			
同 十三年七月廿七日	河合藤四郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎			
同 十五年二月廿五日	河合藤四郎	河合孜郎	河合孜郎	福谷藤七	山田芳藏	内藤齋平	山田芳藏	内藤齋平	加藤發太郎	白井淺治郎			

主要産物

(昭和十四年市産業課調査)

生産總額

種別	昭和十四年度	昭和十三年度	昭和十二年度
工業産物	七、八二二、四五〇	四九、六二六、三六六円	五一、六一一、五六二円
農産物	二、七九四、七一五	五、四〇三、七五六	五、〇七四、九九二
畜産物	二、五四三、七九五	二、三一二、六〇一	一、五二七、九三六
水産物	一一三、三〇九	二、二三一、五九七	一、九二七、六二二
鑛産物	一一三、三〇九	九五、七五九	九七、三八六
林産物	二八、〇〇〇	二七、〇一七	二四、〇五〇
計	五九、六九七、〇九六	六〇、二六三、五四八	

玉絲産額

(三遠玉絲製造同業組合)

買日一 賣日一

組合員數	昭和十四年度	昭和十三年度	昭和十二年度
組員數	四〇人	四〇	四二
生産價額	三、五七〇	六、五五七	六、八三五
生産數量	二九、六二七捆	二五、四八三	二九、四八一
生産價格	一九、一六九、〇〇〇円	九、四四〇、九七三	七、一六〇、二一四

海外輸出
内地販賣

六三〇
二九、六二七

四、七二四
二四、八五三

二四、七五七

生絲產額

(愛知縣製絲業組合東三支部)

種目

昭和十四年度

昭和十三年度

昭和十二年度

組合員數

一六七人

一六〇

一六〇

生産數量

八、三二一

八、三〇四

八、四〇六

生産價格

五五一、六六七

五五、四二〇

五四、七〇一

海外輸出

四七、一四〇、八二四

二一、九七二、六五九

二〇、四〇七、八三三

内地販賣

一五四、四六七

一六、六二六

一八、一二四

總數

四九七、二〇〇

三八、七九四

三六、五七七

麻真田產額

(豊橋輸出麻真田工業組合)

種別

昭和十四年度

昭和十三年度

昭和十二年度

組合員數

四六八

四六

四六

生産價格

二、三三六、五二六

四、一六一、五〇〇

五、六四一、三三三

總數

一、一〇八、三六九

一、一五二、四三九

一、六六二、一五七

豊橋生繭取引市場取引高

年次

春

夏

秋

計

昭和十四年

最高買馴數量金額
一、二〇〇 六三〇 九七、七〇一 六七、五二一 六七、四、九六九

最高買馴數量金額
一、六三〇 五〇〇 九七七、七〇三 一、四八七、七五五 一、四八七、七五五

最高買馴數量金額
一、六三〇 五〇〇 九七七、七〇三 一、四八七、七五五 一、四八七、七五五

昭和十三年

最高買馴數量金額
五、〇〇〇 二、二〇〇 四、一〇四 六九、六三二 三九八、五二一

最高買馴數量金額
六、六五二 二、三三二 四、〇五二 一一四、一三六 五〇八、一八六

最高買馴數量金額
六、六五二 二、三三二 四、〇五二 一一四、一三六 五〇八、一八六

昭和十二年

最高買馴數量金額
六、七三三 四、〇〇〇 五、八八〇 九五、五九五 五二二、二六五

最高買馴數量金額
五、三九一 一、五六一 三、九七〇 一六八、一四二 六六八、〇二五

最高買馴數量金額
五、三九一 一、五六一 三、九七〇 一六八、一四二 六六八、〇二五

豊橋倉庫出入貨物

年次

入庫高

出庫高

殘高

昭和十四年

數量 八三九、一七六

數量 七六七、二八四

數量 二七、八二七

昭和十三年

數量 五九三、六七二

數量 五四九、五三一

數量 一四三、九三五

昭和十二年

數量 五六一、六〇八

數量 五四七、二九四

數量 一〇一、七七四

評價格 五四、三四、六二六

評價格 四五、三四、七〇四

評價格 三二、六一、五七五

評價格 三三、二九、四九九

評價格 二二、九三、七三七

評價格 三、七二、九六四

評價格 三三、二八、八九七

評價格 三三、三九、一二七

評價格 三、三六、九六二

物價と勞銀

一、豊橋市内諸物價卸値段

品名	単位	昭和十四年		昭和十三年	
		上半年平均	下半年平均	上半年平均	下半年平均
玄米	一石	三五・四二	四一・五四	三三・九八	三五・〇五
三河米	一石	三五・〇二	三九・四一	三三・五二	三四・六〇
臺灣米	一石	三一・六四	三七・二五	二七・〇六	二九・二三
朝鮮米	一石	三六・二七	三八・四八	三四・〇二	三五・三〇
白米	一石	三六・〇二	四〇・六二	三四・八八	三五・六六
同	一石	三五・五二	四〇・四七	三四・三七	三五・一六
同	一石	四二・七六	五〇・〇三	三七・八二	四〇・〇四
大麥	正味 十二貫	七・〇五	七・一九	六・二六	六・二九
小麥	同 十六貫	一二・三七	一二・八三	九・七七	一〇・六三
裸麥	同	二九・七〇	二八・一〇	二一・五三	二三・九七
搗麥	同	二七・四九	二八・七三	二四・四五	二五・一六
壓搾麥	同	二五・一三	二五・八〇	二二・〇三	二二・三八
小豆	百斤入 一俵	一四・九三	一九・七一	九・七八	一一・七四
大豆	同	九・八四	一三・三三	八・一一	八・五九

品名	単位	昭和十四年		昭和十三年	
		上半年平均	下半年平均	上半年平均	下半年平均
食鹽	百貫	五・七〇	五・七六	五・七〇	五・七〇
味噌	一石	二六・三〇	三三・一五	二六・三〇	二六・三〇
溜庵	一樽約十五貫	三七・〇〇	三七・〇〇	三七・〇〇	三七・〇〇
澤庵	四打入 一箱	四・七八	六・七五	六・五五	六・八二
牛蒡	一升(百匁)	一・六九	二・一二	二七・一七	二七・五〇
椎肉	百個	一・四七	一・九一	一・四六	一・四八
高野豆	百枚	二・一七	二・四三	一・七〇	一・五七
海苔	百枚	七三・五六	五八・八三	二二・七二	五四・三三
糸干	十貫	一二・五〇	二一・二五	九・五〇	一一・二二
青板	同	三八・〇〇	六六・四〇	三〇・七八	三二・五〇
寒天	同	二四・五九	二五・〇二	二二・三四	二四・三〇
砂糖	同	二一・二四	二一・四二	二〇・〇二	二〇・八六
同	同	一四・四一	一五・六三	一四・五五	一五・三五
同	同	三三・八〇	三三・八六	三一・二二	三三・〇二
氷砂糖	同	八・九六	一一・九二	六・九五	八・五四
中節	一貫	一五・〇〇	二七・八三	一四・五八	一五・三三
鹽	十貫	一五・二八	二三・九五	一二・七一	一三・七五
鹽	同	一二・五六	一八・七二	八・九五	一〇・五〇
竹輪	百本	五・三二	五・五八	四・七九	四・七九

二、豊橋市内日用品小賣値段

品名	銘柄	單位	昭和十四年 上半年	昭和十四年 下半年	昭和十三年 上半年	昭和十三年 下半年
白米	一等米	十四疋	三・七五五	四・二三二	三・八二〇	三・七二九
大麥	丸麥一等品	一疋	二・五五八	三・〇一	二・二二八	二・三二
大豆	平麥同	一升	二・五八	二・七三	二・二七	二・三二
味噌	朝鮮	一貫	三・六五	一	二・九三	三・〇七
味噌	別上	一貫	七・一〇	七八〇	六五〇	六六〇
味噌	赤中	一貫	四・一三	四七三	三一〇	三五五
味噌	龜甲萬	二立	七・五〇	七五〇	七四五	七五〇
味噌	地産(溜六分引)	一升	七・五〇	七五〇	六五〇	七〇〇
味噌	川柳	一升	六・〇〇	六六七	六〇〇	六〇〇
茶	白鶴	一升	二・三二一	二・三五〇	二・二六七	二・三〇〇
茶	鶴正宗	一升	二・一七二	二・二〇〇	二・〇八一	二・一五〇
酒	カブトビール	一本	三・九六	四・〇〇	三・七三	三・九〇
酒	特製三盆白	百卒奴一斤	二・七〇	二・七〇	二・五五	二・六七
酒	本節中等品	百卒奴一斤	一・〇五〇	一・二七五	一・八七八	一・九六七
酒	地玉	同	二・九八	三・四五	二・六六	三・三六
酒	若雄	同	九・七五	九三八	六九七	七六一
酒	内口	同	一・〇〇	一・三四五	一・二〇〇	一・二五六
酒	口ス	同	七・五〇	七〇〇	七五〇	七〇〇

二三

硝子板	内製	百平方尺	八・七六	九・四五	八・六五	八・七〇
亞鉛釘	針金八番	八十斤一樽	一五・五〇	一五・五〇	一三・二三	一五・七九
同	安田製二寸	百斤一樽	一九・二一	一九・一三	一六・四三	一九・四一
同	ブリキ板	一箱	三九・二七	三九・〇七	四〇・二二	三九・四三
同	浪板	十枚	一一・二六八	一一・三二六	一〇・五五	一一・四一
亞鉛引平板	月星印三十一番	十枚	一五・二一	一五・九五	一二・四九	一四・九八
杉皮並物		十束	三・二〇	三・一三	二・〇〇	二・五五
杉柱	同	同	一一・五〇	一一・五〇	九・〇八	一一・〇八
杉柱	四寸角二間中	同	一一・五〇	一一・五〇	一〇・〇〇	一一・二九
杉板	同	同	一一・五〇	一一・五〇	一〇・〇〇	一一・二九
杉丸太	同	同	七・〇〇	七・三三	五・二五	五・五八
松丸太	同	同	一一・五〇	一一・五〇	九・〇八	一一・〇八
檜丸太	三河産二間尺	一本末口六寸以下	二・六五	二・九二	二・五六	二・六五
竹本	四寸廻り	十本	一一・八三	一一・〇〇	七・五〇	八・五八
角又	晒糊上	十貫	二・六五〇	二・九三三	二・三〇〇	二・三〇〇
叩石	灰並	一噸	七・〇〇	七・五〇	五・二五	五・〇〇
瓦六判	上目板並	百枚	二・四〇〇	二・七三三	一六・六七	一九・三三
同	形	同	二・六〇〇	二・九三三	一八・六七	二一・三三
煉瓦	一二等品	千本	四・一五	四・七六	三・八〇	三・九一

二二

三、豊橋市内労働賃金表

業名	昭和十四年		昭和十三年	
	最高	最低	最高	最低
製絲工	一・五〇	一・三〇	一・〇五	一・三〇
製綿工	二・五〇	一・七〇	一・〇〇	一・七〇
旋盤工	七・〇〇	一・三〇	三・五〇	一・三〇
仕上工	七・〇〇	一・三〇	三・五〇	一・三〇
鑄造工	五・〇〇	一・三〇	三・〇〇	一・三〇
鍛冶工	三・〇〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
陶器工	四・四二	一・六〇	二・五〇	一・三〇
陶器工	二・三三	一・四〇	一・二五	一・三〇
醸造工	一・一〇	一・一〇	一・一〇	一・一〇
氷砂糖	二・五〇	一・四〇	一・四〇	一・四〇
製粉小	二・〇〇	一・〇〇	一・九〇	一・〇〇
和菓子製造	三・五〇(月)	一・〇〇	一・九〇	一・〇〇
雜菓子製造	二・五〇(月)	一・〇〇	一・九〇	一・〇〇

業名	昭和十四年		昭和十三年	
	最高	最低	最高	最低
活版工	二・〇〇	一・三〇	一・八〇	一・三〇
石版工	二・三〇	一・三〇	二・三〇	一・三〇
製版工	二・三〇	一・三〇	二・三〇	一・三〇
洋服立	二・六〇	一・八〇	二・六〇	一・八〇
製靴工	二・〇〇	一・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
下駄工	二・五〇	一・〇〇	二・五〇	一・〇〇
製材工	二・七〇	一・六〇	二・七〇	一・六〇
製函工	二・三〇	一・三〇	二・三〇	一・三〇
指物工	三・〇〇	一・五〇	三・〇〇	一・五〇
製網工	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
製筆工	三・〇〇	一・五〇	三・〇〇	一・五〇
大工	二・八〇	一・八〇	二・八〇	一・八〇
左官	二・五〇	一・五〇	二・五〇	一・五〇

業名	昭和十四年		昭和十三年	
	最高	最低	最高	最低
澤庵産	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
地産	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
鹿葱	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
甘藷	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
馬鈴薯	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
鹽鮭	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
鹽腐	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
豆腐	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
高野豆	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
推野	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
晒木	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
綿糸	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
白モスリ	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
白縮	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
綿縮	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
木炭	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
薪炭	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
コク	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
中央紙	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
石鹼	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
餛飩	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
足袋	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
燐寸	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇

石工
ペンキ塗
瓦葺
煉瓦積
薦人夫

三・五〇	三・〇〇	二・五〇	庭師	二六	二・〇〇
三・五〇	二・〇〇	二・五〇	仲仕(陸)	四・〇〇	三・五〇
三・七〇	二・〇〇	二・〇〇	日雇男	二・〇〇	一・〇〇
三・〇〇	二・三〇	一・九〇	日雇女	一・五〇	〇・八〇
二・七〇	二・三〇	一・九〇	土工	二・三〇	一・五〇

豊橋市内組合銀行營業概況

1、諸預金

年次	定期	當座	特別當座	各種預金	合計
昭和十四年末	二五、七八七、七六五	九、六六七、一五五	一〇、九一七、四六九	一六、三八、〇一〇	六三、五二〇、三九九
昭和十三年末	二〇、四三三、一四三	五、四八三、六一〇	七、一〇九、三四八	九、六九九、五二五	四三、七二五、六一六
昭和十二年末	一七、三六三、一九一	四、四三三、五六九	六、三九三、九〇〇	八、三五一、一三六	三六、三三八、七九六

2、諸貸出及金銀在高

年次	貸付金		出		合計	金銀在高
	貸付金	割引手形	當座預金貸越	合計		
昭和十四年末	一九、三三四、〇〇七	四、五一二、三三二	二、二五〇、三〇〇	二五、九九五、四三八	二、九五三、五〇六	二、九五三、五〇六
昭和十三年末	一三、六三〇、九六六	一、八八四、四三六	一、九八五、八一六	一六、五〇一、二八八	一、〇七七、四三八	一、〇七七、四三八
昭和十二年末	一一、七八八、三一九	一、五三三、五五七	一、五五五、五三三	一四、九〇六、九〇八	一、〇四四、九〇四	一、〇四四、九〇四

3、爲替手形

年次	送金取組高		送金支拂高		荷爲替取組高		荷爲替取立高		他取立手形		當取立手形	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
昭和十四年	一一、六七〇、七七一	八六、一〇一、六三八	六四、四六五、一八〇	三六、二六六、三七三	五二、八八〇、五二二	五、三三四、七六一	三三、三三四、七六一	五、三三四、七六一	三三、三三四、七六一	三、七八九、〇一八	三、七八九、〇一八	三、七八九、〇一八
昭和十三年	六四、三六、八七	五三、六七〇、一五	三三、三〇二、九一九	一八、七〇四、九五三	三四、八〇四、六二二	三、八七九、〇一八	三、八七九、〇一八	三、八七九、〇一八	三、八七九、〇一八	三、八七九、〇一八	三、八七九、〇一八	三、八七九、〇一八
昭和十二年	五四、四三三、四六	四七、三三四、八三	三三、四三三、三六三	二〇、三六八、二四四	三三、四三三、三六三	三、五五五、二六九	三、五五五、二六九	三、五五五、二六九	三、五五五、二六九	三、五五五、二六九	三、五五五、二六九	三、五五五、二六九

4、利子

年次	定期預金(年利)			當座預金(日歩)			特別當座預金(日歩)		
	最高	最低	普通	最高	最低	普通	最高	最低	普通
昭和十四年	三三・〇	三三・〇	三三・〇	二・〇	二・〇	二・〇	五・〇	五・〇	五・〇
昭和十三年	三三・〇	三三・〇	三三・〇	二・〇	二・〇	二・〇	五・〇	五・〇	五・〇
昭和十二年	三三・〇	三三・〇	三三・〇	二・〇	二・〇	二・〇	五・〇	五・〇	五・〇

5、手形交換高及不渡手形

年次	手形交換高		爲替手形		約束手形		小切手		合計	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額
昭和十四年	一四一、〇〇四	一三六、八二八、〇〇七	九	一、五〇八	三五	三〇、二〇〇	一	三〇〇	四	三、七〇九
昭和十三年	一九、七六五	七四、九六四、三三三	一一	二、一六五	四四	七、三五五	一	一五八	五	九、八三〇
昭和十二年	一三、五一〇	五九、七九〇、三〇七	一〇	二、六六七	四五	一五、八五二	二	一五八	五	一八、六七七

瓦斯 (豐橋瓦斯株式會社)

年次	延呎		屋內數	引用戶數	孔口數		賣上瓦斯量 立方米
	本枝管	供給管			燈火用	熱用	
昭和十四年	四、五三六	五、三九五	八六、八六六	三、四八五	一、七三六	一〇、一三四	
昭和十三年	四、二九一	五、七八八	八六、三二四	三、三五二	四、〇九九	九、八四九	
昭和十二年	三、三〇九	五、〇六六	八五、六七二	三、二六四	四、一九一	九、三四九	

豐橋乾蘭取引所銘柄別清算取引賣買數量

年次	年度	當限		先限		賣買高	受渡高
		最高	最低	最高	最低		
昭和十五年	上半期	四二一・〇	三〇・五	四〇八・五	二八・九	一一、三三三、二〇〇	六九、六〇〇
	下半期	三五四・〇	一四九・三	三五四・〇	一五・七	一三、九七〇、六〇〇	六三、四〇〇
昭和十四年	上半期	三五四・九	二八・〇	三五五・〇	二二・七	九、〇〇四、四〇〇	四一、七〇〇
	下半期	一三四・七	一一・二	一三三・八	一一・〇	三、五三七、〇〇〇	一八、六〇〇
昭和十三年	上半期	一五四・九	一一・〇	一六四・六	一一・一	六、〇三七、六〇〇	四七、七〇〇
	下半期	一六〇・五	一〇・九	一六〇・四	一一・二	三、五八三、六〇〇	一四、九〇〇

豐橋市内投宿人員

年次	年度	普通		木賃	
		一ヶ年合計	一日平均	一ヶ年合計	一日平均
昭和十四年		七七、七九五	二一三	四、九一〇	一四
昭和十三年		六四、〇九六	一七六	五、三一二	一五
昭和十二年		六五、〇四七	一七八	五、六三九	一五

交通と通信

産業界現下の状態は大體以上の如くで、之れを大局から觀察すれば未だ幼稚であるが、我が豐橋の歴史よりすれば實に此の二十數年間に於て驚くべき長足の進歩發達を遂げ、今や全く隔世の感を催すのである之れは要するに、主として交通施設の影響に依るもので、事實上豐橋は東三河に於ける經濟及び文化の中心となつた。

表玄關たる豐橋驛を始め其他各驛最近の發着貨物及び乗客の状況は、大體逐年増加の趨勢を示し、市内に於ける自動車の發達著しく、バスは當市を中心とし縦横に疾驅して居る。我が産業界は益々發展し、市民經濟の向上亦顯著である。豐川鐵道の姉妹線とも言ふべき鳳來寺鐵道は、豐川線の終點長篠驛から北設樂郡三輪村・川合間を運轉し、同鐵道鳳來寺口驛より鳳來寺村・海老町を経て北設樂郡田口町へ至る田口鐵道、渥美半島を縦貫する渥美電鐵は、豐橋驛前から田原町を経て黒河原まで運轉してゐる。名古屋を起點とする名古屋鐵道の市内乗入線は全通し、市内電車は豐橋驛から南は柳生橋、東は東田まで運轉し、大いに便宜を與へてゐる。三十有餘年來の懸案であつた三信鐵道は昭和十二年八月全線の開通を見、海の日と山の日本とを横斷し、信州飯田市へは僅か三時間餘を以て達し、伊那電氣鐵道に依り中央線辰野驛に連絡、裏日本と表日本とを結び付ける幹線で、豐川稻荷・鳳來寺・善光寺等を參拜する善男善女は勿論一般旅客の往來は頻繁となり、更に豐橋と濱名湖北を結ぶ國鐵二俣線は、昭和十五年六月一日豐橋・二俣

間の全通式を舉行し、東海道本線の一翼として時局下軍事産業運輸の重大使命の下に東海道線掛川驛との連絡完成し、豊橋驛は貨客の輸送に狹隘を告ぐるに至り、今や驛舎並に構内の擴張工事中である。

斯くて豊橋は忽ち四通八達の要地として急激なる都市的膨脹を來し、市民の産業生活・文化生活の發展充實に相應じて通信の繁激を加ふると共に、又其の機關の整備と之れが利用及び取扱ひの敏速を要するは當然のことである。

尙、水運方面に於ては柳生川運河の完成に引續き、豊川改修並に豊橋港修築は愈々其の緒に就き、完成の曉に於ける當市の發展誠に多幸なるものがある。

豊橋市内各郵便局郵便物

年次	書留		小包		價格表記	
	引受數	配達數	引受數	配達數	引受數	配達數
昭和十四年	1,251,160	1,000,760	1,981,245	1,770,003	6,623	
昭和十三年	1,211,100	1,111,138	1,811,031	1,651,564	6,505	
昭和十二年	1,500,954	1,200,310	1,461,401	1,344,487	6,074	

豊橋市内各郵便局郵便爲替

年次	内國爲替			外國爲替			計		
	振出高	拂渡高	振出高	拂渡高	振出高	拂渡高	振出高	拂渡高	
昭和十四年	77,384	2,200,811	2,883,003	67	2,231,066	2,266,973	1,031,133	2,998,946	
昭和十三年	72,039	1,733,589	2,311,499	103	1,543	1,742,684	940,937	2,368,453	
昭和十二年	68,792	1,703,267	1,770,053	16	645	1,703,777	800,443	1,791,739	

豊橋市内各郵便局郵便貯金及振替貯金

年次	郵便貯金		振替貯金	
	預入高	拂戻高	振出高	拂渡高
昭和十四年	1,193,741	1,130,737	59,540	4,011,313
昭和十三年	778,334	8,082,389	51,318	3,719,613
昭和十二年	437,273	6,575,464	47,091	2,070,928

豊橋郵便局郵便切手・葉書・收入印紙賣捌高

年次	郵便切手		郵便葉書		收入印紙	
	枚數	金額	枚數	金額	枚數	金額

年次	單獨加入者數	市内通話數	市外へ通話數	市外より通話數
昭和十四年	一〇、六八八、六四二 <small>枚</small>	五七七、三七一 <small>円</small>	八、五五〇、三九七 <small>枚</small>	一九八、三四三 <small>円</small>
昭和十三年	一〇、三六、四〇三	五二二、六四三	六、八五三、〇七九	一三四、二二三
昭和十二年	一一、二六四、一四五	五〇三、六八〇	七、四八一、二二三	一七三、二二五
				一、二〇一、五七九 <small>枚</small>
				一、〇四六、四六三
				一、〇五八、八六三
				二五三、五五九 <small>円</small>

豊橋郵便局電話通話數

年次	單獨加入者數	市内通話數	市外へ通話數	市外より通話數
昭和十四年	三、一五七	二二、五八八、八六八	七三一、〇四七	七六八、九四五
昭和十三年	三、一四二	二一、七七九、九九五	六三七、七二一	六七三、二五六
昭和十二年	三、〇四六	二一、〇九四、一八三	五八三、二六五	六〇五、八九〇

豊橋郵便局電報發着數

年次	内 國 電 報			外 國 電 報		
	發信	着信	中繼信料金	發信	着信	中繼信料金
昭和十四年	一一四、五三〇	一九三、八六六	一六七、六七〇	二六六	三三三	—
昭和十三年	一〇四、七四一	一七二、一五〇	一五四、四二二	三三三	二八三	一〇五
昭和十二年	一六五、四五三	一九三、七六三	一三四、三八一	四四七	四〇八	一五
						二、六四〇 <small>円</small>
						一、三八五
						三、三二三

宗 教 教 育

我が豊橋市の教育は輓近著しく進歩發展の域に達したけれども、一般の状況に就き、殊に施設上のことに關しては未だ到底満足することが出来ないものである。本年四月末現在によれば、市内には縣立豊橋中學校・縣立豊橋第二中學校・市立商業學校・市立高等女學校・市立女子商業學校を始め、二十四の小學校と補習教育のため設けられた商業專修學校と青年學校がある。此の外豊橋高等家政女學校・豊橋松操女學校・豊橋高等實踐女學校・愛知高等和洋女學校・豊橋盲啞學校・豊橋速算學校・看護婦產婆學校等の私立學校、豊橋幼稚園・花園幼稚園・小百合幼稚園等があり、此の外に市立圖書館・動物園、更に教育關係の事業を企畫實行し、又は直接教育の研究を目的とする市教育會並に教員協會がある。

次に財團法人豊橋育英會は昭和二年十月設立せられ、將來有爲の人材を養成する爲め廣く育英資金を募り、學資の關係上廢學にならんとする者に貸費補給を爲し、更に進んで右補給生及び豊橋出身の學生の爲めに全國六大都市に寄宿舎を設立し、各自の負擔を減じ向學の便を圖つて居る。其の他生活の改善を高唱し、社會に貢獻する所極めて大なるものがある。其の外幾多の教育及び學術研究が行はれ、何れも相當効果を收めてゐる。

次には宗教方面であるが、豊橋市民の宗教心は果して如何に陶冶されてゐるであらうか、茲に之れを具體的に述ぶることは却々困難であるけれども、比較的正しい批判力の下に、自由信仰の態度を取つてゐる

様に見受けられるのは、何んもなく嬉しい感じを起させる。而して本年四月現在市内に於ける神社の数は百十七社で、其の内縣社が二社、郷社が四社、村社が七十一社、無格社が四十社。尙寺院は總て百二十六ヶ寺、之れを宗派別にすると、曹洞宗―五十一ヶ寺、浄土宗―二十九ヶ寺、法華宗―三ヶ寺、眞言宗―六ヶ寺、天台宗―一ヶ寺、臨濟宗―二十一ヶ寺と、外に眞宗大谷派本願寺別院の一ヶ寺で、其の他神道教會―四十三ヶ所、佛道教會・同說教所―九ヶ所、基督教會―六ヶ所と言ふ状態である。然し飽海時代即ち鎌倉期以前に於ける神戸（今の豊橋地方を言ふ）のものとしては、中八町縣社神社、羽田御厨のものとしては湊町の郷社神社並に葦御園のものとしては、東田町の郷社神社などが顯著なもので、尙飽海時代に創立された神社には關屋町縣社吉田神社・東八町八幡神社・花田町郷社八幡社・岩崎町村社神社、次いで岩田町村社神社・魚町安海熊野神社・新錢町村社白山比咩神社・岩崎町村社鞍掛神社の八社あり。寺院には西竺寺・妙徳寺・正琳寺等があつたけれども多くは既に廢滅に歸し、今日遺跡の残つてゐるものは獨り正琳寺のみである。又建築の最も古いものを謂へば、寛文二年の建設に係る龍拈寺の鐘樓、次に延寶二年の建築で新錢町天神社の拜殿、それから貞亨二年で神宮寺の本堂、元祿二年で龍拈寺の觀音堂、同六年で龍拈寺の樓門、同七年悟眞寺の本堂、同十年神宮寺の樓門、同年末淨圓寺の庫裡などである。淨圓寺の本堂も元祿以前の様に傳へらるゝが如何せん明確でない。外に神宮寺の護摩堂は寛永二十年、別院の鐘樓は同二十一年の建築であるが、何れも後世の修繕が著しく、原形を残してゐる部分は少ない様に考へられると同時に、之れを純の藝術として誇るに足るものは殆んどない。

社 會 事 業

歐洲戰亂以來世界思潮は急激なる變化を來し、社會政策の氣運頓に勃興し、諸般の行政一つとして此の問題を度外に置くことが出來なくなり、社會事業調査員會も組織され、各種の社會施設に關し其の研究實行に着手したのである。されど所謂其の社會事業なるもの、範圍は實に廣範多岐であつて、今俄かに凡ゆる方面に亘り之れが研究施設を爲すを得ないから、逐次其の充實を期せんとする模様である。市は行路病者・窮民及び軍事の救護や罹災救助は之れ迄よりも一層完全にすると共に、人事相談・失業者の救済及び細民調査の隣保同化事業、尙進んでは無料診療所なども實施しつゝ、更に此れ等關係方面の研究の歩を進めてゐる。社會事業は總て事實に立脚しなければならぬ。現状を曝露して識者の考慮を促すのは今日の最も急務とする處である。社會状態の調査研究は從來餘り重きを置かなかつたのであるから、將來大いに此の方面に努力を拂つて貰はなければならぬ。社會組織の缺陷から來る落伍者の數が、物質文明の進歩に伴ひ、年と共に激増の勢ひを示し且つ其の多くは集團を成して、所謂細民地區なるものさへ形成するに至るのである。社會的疾患は之れから生ずるので、之れを治療することは一面には各個人生存權の人道上の要求に合致し、他面には社會自衛又は社會向上に缺くべからざる處で、又都市改良の根本義であらねばならぬ。此の意味からして各種事業の施設計畫中、豊橋市役所内に設けられた方面委員事務所は其の成績大いに見るべきものがある。豊橋市新川公設市場・松葉公設市場及び公益質屋は既に開設せられ、めざましき活躍を爲してゐる。尙、小住宅の建設・簡易食堂の社會的施設に着手せられんことは望ましく思ふ。

殊に最も注意すべきは市内に於ける救済施設の助成監督であつて、今其の既設事業を分類すれば、育兒感化及び託兒人事相談等を兼ねて居る東田の有隣財團と、豊橋盲啞學校等其の主なるものであるが、尙本市施設の無料宿泊所も好成绩を擧げて居る。之れ等は周到なる社會現象並に其の原因の調査に基き、統制的有機組織に依つて一齊に其の歩を進め、共同責任の觀念に依つて根本的に之れが改善向上を企圖しなければならぬと思ふ。此の外豊橋方面事業助成會の經營する保育園三ヶ所、其の他の經營する保育園も數ヶ所設立されてゐる。

次に、社會事業の範圍に入らないかも知れないが、愛知國防義會豊橋支部・帝國軍人後援會豊橋支部・海軍協會豊橋市分會・豊橋市銃後奉公會・大日本國防婦人會豊橋市支部・愛知縣商工團體銃後後援聯盟豊橋支部等によつて、我が國家の爲めに生命を賭して働く將士並に家族の慰問・後援を行つてゐる。

土木衛生

輓近豊橋市及び接續町村の急激なる人口増加の趨勢並に商業の殷賑・工業の隆昌、其の市及び町村部落を通じ、蔚然勃興の機運を醸成せる産業の發展に伴ひ、人車の交通・貨物の集散愈々繁劇の度を加へ、隨つて交通機關の整備改善は蓋し急務中の急務に屬するので、市當局は之れ等交通の狀態に鑑み、豊橋市を中心として各道路の改善、其の幹線の連絡並に主要鐵道停車場を連絡する主要道路の改善に關しては鋭意之れを企圖すると共に、地方開發に必要な道路の改修を計畫し、時運に伴ふ施設を完ふせんことを頻りに研究調査を重ね、極力目的達成に努力した結果、昭和七年度より三ヶ年繼續第一期事業として、東部商業地帯と西部工業地帯とを聯絡する跨線道路橋並に地下道の施設は完成し、更に第二期事業として前記連絡道を基本として築港地帯と聯絡し、以て郊外重工業地帯と市の外廓重要路線を聯絡して物資の集散に便するもの等の數線を選定し、之れを都心地帯より放射すると共に、一面本市の玄關たる驛前廣場の擴築を行ひ、其の他須要路線の新設或は改築を行ひ以て市區の改正をなし、同時に交通系統の圓滑なる運用を期し、更に市を中心とする南北郊外に於ける重要施設は着々進捗しつゝあるが、之れに伴つて將來この方面が商工業地帯として飛躍的發展をなすであらうことを豫想され、且つ國防的見地からも一大都市計畫の實施を見んとしてゐる。

上水道は大正十五年六月三十日市會を経て諸般の準備を整ひ、昭和二年七月十八日起工式舉行以來月を閲する三十三にして、工費二百六十有餘萬圓を以て完成を告げ、同五年三月二十九日通水式を行つたが、工事の概要は本市を環流する豊川の伏流水を水源とするものであつて、市内下條字西町三ノ下地先、同川本流の河底に集水埋渠を構築し、同河畔の送水場唧筒井に導流し、同所より新設送水管路及び縣・市道を濫て東南三十三町を距る多米町字小鷹野の濾過池に送り淨水となし、同所内の高揚唧筒で淨水場を距る東八十間の高地給水場内配水池に送り、是れより計量室を経て自然下法により市街地の給水區域に送り、將來人口増殖十六萬に達するも、送水及び配水管の増設並に相當附加工事を施すに於ては、給水に應ずべき設備である。

本市の地勢は東方より西方に向つて傾斜するも、市街地は概ね低地部に屬すると、市内街地では河川・

溝渠の配置が拙いので排水不便であつて衛生上極めて不良で、傳染病患者數等も亦相當多いので、本市衛生改善の見地より下水道の計畫は焦眉の急を感じる所となつてゐたが、昭和七年一月より着手せられ昭和十一年三月竣工した。總經費三百七十四萬四千八百八十九圓といふ、當市にとつては未曾有の老大な土木事業で、彼の上水道よりも五十數萬圓多い。下水の排水は牟呂用水路を境として一は柳生川へ、他は豊川へ放流せられる。其中、豊川に入る汚水は一旦處分場に於て淨化を行ふことになつてゐる。此の事業は本市衛生の改善の見地より喜ぶべきことであることは言ふ迄もないが、又失業救済の効果も極めて顯著である。

尙、總費十七萬圓を要した市公會堂は、昭和六年八月其の竣工を見た。總建坪三百五十餘坪、其の近世式文化的設備と、其の壯麗なる様式とは永く豊橋市の誇りである。

名 所 舊 蹟

今橋城—戸田・今川の争闘—家康と織田氏—
城主の交代—最後の藩主—吉田城址

今の豊橋を吉田と稱へたのは天文年間から明治二年迄で、其の以前は今橋と謂つた。當時三河の國の守護は吉良氏であつたが、文明の頃に至つて牧野古白が此の今橋に築城したのである。然るに永正三年八月駿河の今川氏自ら軍を率ひて今橋城を攻めた。古白は城に據つて死守すること六十餘日、惡戦苦闘を續けたけれど力遂に及ばずして自殺するに至つた。是に於て城は一時田原城主戸田彈正憲光の一族、戸田金七

郎の有となり、其の後大永の始め頃に至つて、古白の遺兒傳左衛門成之と傳藏信成の爲めに再び取り返された。程なく成之は隱居して信成其の後を襲つたが、享保二年岡崎の松平清康大舉して此の城に襲來し、信成は一族郎黨と共に下地に於て戦つたが武運拙くして遂に戦死し、城は一時松平氏の有に歸した。然るに天文四年吉田時代に至り、清康の守山崩れ以後は復び戸田金七郎の有となり、爾來十有餘年間舟形山一帶の山脈を境界として、戸田・今川兩氏の争闘が絶へなかつたが、天文十五年遂に今川義元の範圍に入つたのである。處が永祿三年五月桶狭間の戦に於て義元戦死した。其の時徳川家康はまだ松平元康と言つて今川方の味方であつたが、其の翌四年に至つて義元の子氏真との間に不和を生じ隣交は斷絶となつた。其の頃吉田城には今川氏の將小原肥前守鎮實が居つて、東三河に於ける諸將の人質を此の城に預つて居たが家康に屬したものは悉く龍拈寺口と言ふ處で殺して仕舞つた。家康が岡崎から大舉して此の城を攻めたのは永祿七年の初めであるが、其の頃今の豊橋市の東部に當る仁連木にも城があつて戸田主殿介重貞が居つた。此の重貞も早くから家康に心を寄せて居たが、何分にも其の母が人質として此の城に容れてあつた爲め反旗を翻す前に先づ母を奪ひ戻さなければならぬと考へ、種々工夫した末に首尾よく目的を達した。家康は翌八年鎮實を亡ぼし、此の城を酒井左衛門尉忠次に與へた。斯くて程なく今川氏は衰へ三河は勿論遠江全國までも徳川氏の有に歸するに至つたが、其の代り今度は追々甲州から武田氏の侵入が始まつた。即ち元龜三年十二月信玄軍を率ひて遠江の三方ヶ原に於て戦つたが、此の合戦は徳川氏の大敗となつた。信玄は勢ひに乘じ更に三河に進入し、天正元年正月南設樂郡の野田城を陥れたけれど、此の戦の爲めに逝去するに至つたのである。然るに天正三年四月其の子勝頼大兵を擧げて仁連木城を襲ひ、續いて吉田城に

迫つた。夫れから長篠の合戦となつたが、今度は武田方の大敗となり、之れが原因で天正十年三月織田信長と家康との爲めに根據を侵略されて、武田氏全く滅亡するに至つたのである。其の年六月織田信長は本能寺に於て明智光秀に殺され、之れより秀吉の舞臺となつた。秀吉と家康は小牧山で一度戦ひを交へたけれど程なく相和し、天正十八年秀吉が小田原に北條氏を征伐したときにも、家康も國を明けて秀吉に捧げ自分も之れに従軍した。其の役の終つた處で家康は秀吉の爲めに關東へ移封せられたのである。此のときに忠次は既に隠居し其の子家次が相續して居たが、之れも家康に従つて上州碓井の城へ移つた。家次の後へ來たのは池田三左衛門輝政で、牛久保・新城・田原の三城も其の配下に屬し、知行十五萬二千石を領することゝなつた。仁連木城は此のとき廢止されたのである。然るに慶長五年關ヶ原の合戦後、輝政は功を以て播州姫路五十二萬石に封ぜられ吉田城を去り、其の後を繼いだのが松平玄蕃頭家清であつた。封祿三萬石。其の後慶長十七年に松平主殿介利忠、寛永九年に水野隼人正忠清、同十九年に水野監物忠善と屢々城主の更迭があつたが、祿高は矢張り多い處で四萬五千石位のものであつた。正保二年小笠原登岐守忠知城主となつたが、夫れより長矩・長祐・長重と四代の間繼續した。小笠原氏に次いで元祿十年久世出雲守重之が來たが、之れも在城十年にして寛永二年牧野備前守成春と交代した。成春の次は其の子大學成英で牧野氏に代つて此の地の城主となつたのは大河内氏である。大河内氏は正徳二年信親の時代に初めて古川から移封されて來たのであるが、享保十四年一度濱松へ轉封になり、之れに代つたのが松平豊後守資訓で之れも寛永二年になつて再び大河内氏と交代になつた。封祿七萬石。當時大河内氏は信親の代であつたが夫れから信禮・信明・信順・信實・信璋を経て信古に至つた。之れが最後の城主で、吉田城址は今の中部

第六十二部隊の營舎のある處である。

仁連木城—其の來歴と宗光—重貞の戦死—

天正の戦—康長の戦功

東田の北に朝倉川と言ふ小川が流れて居る。之れは蟬川の下流であるが、此の川に臨める高地に仁連木城の舊址がある。此の城の來歴に就いて種々な説があるけれども、明慶年中戸田彈正左衛門尉宗光の築いたものであると言ふのが事實らしい。宗光が初め碧海郡上野の城に居たが、寛正六年五月徳川家康から七代目の祖に當る松平和泉守信光と共に室町幕府の命を受けて、三河國內の一揆を平定したことは蜷川親元の日記などにもあつて有名な話である。宗光は其の後居を渥美郡の老津に移し、更に一色氏の後を襲いで永正十三年の頃田原に根據を構へたが、其の後更に時を得て此の仁連木にも城を築き、田原をば其の子憲光に委ねて自分は此處へ移つた。それは多分明慶初年の頃であると思ふ。宗光卒去の後は憲光及び其の次男吉光も此處に居城した事實がある。其の後は此の城も暫らく放棄されてあつた様に考へられるが、天文十年に至つて憲光の曾孫に當る丹波守宜光が牛窪の加治村から之れを再興したのである。永祿七年吉田城から其の母を奪ひ返した主殿介重貞は即ち其の子であつた。重貞は其の年の十一月吉田城攻めに於て戦死したので其の後を弟の甚平忠重が襲いだ。然るに之れも又永祿十年五月病歿した。當時其の子の康長はまだ六歳の子供であつたから、一族の戸田傳十郎吉國と言ふ人が之れを扶けて陣代となつた。即ち元龜三年武田信玄の襲來に方つても天正三年五月武田勝頼の來攻に際しても共に吉國後見の時代であつたが、其の家臣等の奮闘によつて天正の戦ひには敵首十八級を得、以て家康の臺覽に供したと傳へられて居る。之れ

より先康長は松平の姓を賜はり、家康の同母妹久松氏に配したのであるが、後屢々徳川氏の爲めに戦功を立て、天正十八年家康の關東移封と同時に武藏國東方一萬石に封ぜられたのである。爾來仁連木城は遂に廢城となつて今日に至つたのであるが、今は大口喜六氏の所有地であつて一部農園となつてゐる。

豊川の清流—古名の色々—橋梁移轉—地子御免
—貨物の運上—舊幕時代の湊

豊橋の架つて居る川が即ち豊川である。其の源は北設樂郡段戸山に發し、南流して段嶺村を過ぎ作手川を容れて寒狭川となり、南設樂郡長篠村に至りて三輪川を合し、更に西南に流れて寶飯・八名・豊橋二郡一市の界を爲し、前芝村に至つて渥美灣に入るのであるが、延長凡そ十七里である。この河の古名を飽海河と謂ひ、後吉田川とも言つたが、近世一名姉川の稱があつたが併し此の名は餘り世に知られて居らぬ。昔、飽海郷と渡會郷との間に志香須賀と言ふ豊川の渡しがあつたが、地形の變遷が甚しいので今其の位置が明かでない。元は此の名を然菅と書いたが、中世から白菅の字を訛用したるものと思はれるが、其の後又更に鹿菅なども書かれて居る。豊橋を渡れば市内下地町である。橋の此方が船町で、この町は池田輝政の橋梁移轉に依つて漸次發展を來したものであるが、船乗又は運送渡世の者が多かつたので、慶長五年關ヶ原の役には城主輝政の命を受けて伊勢の津又は松坂等へ往來したのである。夫れが縁故となつて爾來引續き藩主から船役を命ぜられ、地子御免の上此の河に輸入する貨物の運上を取ることをも認められて居たのである。而も舊幕時代には此處以外豊川沿岸の地に湊を許されなかつたから、伊勢又は尾張地方に交通する船舶は常に川下に輻輳して、船町の繁昌は著しかつたものであつた。

豊橋名代行事

笹踊—煙火—鬼祭

元祿時代と言へば誰も知らぬものはない江戸全盛の時であるが、其の驕奢な風は地方にまでも流れて來たので、彼の吉田の煙火なども此の頃から盛大になつた。勿論此の煙火は關屋町縣社吉田神社の祭禮に於て行はれたのであるが、元同社の神官であつた石田家の記録に依つて見ると、初めて建物（花火の一種）の大きなものが出來たのは元祿十三年のことで、長さ十三間、幅三間半で其の費用は二十四兩かゝつたとしてある。舊幕時代には祭禮中本町の通行を禁じ市街に於て打揚げたものであるが、今は社前と豊川の水上に於て行つて居る。又同祭禮に要する本町の山車に幕の出來たのも元祿十六年のことであるとしてあるが、萱町から出る笹踊の裝束も元は木綿の浴衣であつたのを元祿に入つて絹更紗染に改め、其の十七年に至つて緞子のものが出來た様子である。そのみならず、右の記録の中には其の笹踊を囃す爲めに大太鼓や小太鼓の打手の中に頗る名人が出來たと云ふことが詳しく記してある。吉田神社の祭禮は毎年七月十三日より三日間であつて吉田神社の風流を偲ぶ。十三日神前で行はれる大筒・手筒、十四日豊川の清流で打揚する打揚花火、十五日の笹踊は古への田樂の遺風で、十騎の武者行列・頼朝の姥・饅頭喰ひ等は今なほ此の祭に行はれる天下名代のものとなつてゐる。此の外豊橋市に於ける年中行事として主なるものは中八町縣社神明社の鬼祭である。此の社の例祭は毎年二月十四日・十五日兩日を以て行はれ、俗に之れを鬼祭と稱へて居るが、其の式は天狗の面をつけ烏帽子小具足を着けた武者が赤鬼を追ひ拂ふのである。此の外

田樂の遺風である四天師のチンバ踊・笹良子のポンテンザラの神事を始め、黒鬼や榎玉争ひの神事、お頭様の渡御になる順序で、此の神事は極めて奇なる祭で全國に其の例を見ること稀である。

附近町村を探ねて

豊川・鳳來寺鐵道沿線—豊橋以西—豊橋以東—
渥美電鐵沿線—八名方面—ハイキングコース

我が東三河は古い歴史を有つて居るだけに、今尙王朝以來の遺跡を始め室町期即ち群雄割據時代の城壘並に古戦城其の他武將の墳墓が到る處に見受けられる。先づ豊川鐵道の沿線では、小坂井町の東端に在る風祭で名高い菟足神社、次には徳川氏の葵の紋所が起つたと言ふ由緒ある伊奈城址、牛久保では今川義元並に舊一色城主一色刑部少輔の墓がある大聖寺、山本勘助の墓所で知られて居る長谷寺等あり、尙それから程遠からぬ處に牧野民部丞成定のために建立した光輝庵がある。牛久保驛より僅かに進むと豊川に達するのである。此處には吒枳尼眞天によつて天下に有名な妙嚴寺の稻荷と、外に三明寺の名蹟、縣立蠶業試験場豊川支場及び全陸上競技聯盟公認の大グラウンドがある。豊川稻荷の新本殿は三十有餘年前より計畫せられ、昭和五年四月漸く竣工したといふ甚だ豪壯なものである。國幣小社砥鹿神社は三河一宮驛を去る三丁ばかり東方で祭神は大己貴命である。次は長山驛で、砥鹿神社奥宮に鎮座する三河第一の高山本宮山は此處から頂上まで五十餘町である。尙この驛には會社直營の遊園地があつて四季遊客を喜ばしてゐる。東

上驛附近に牛の瀧あり、直下六十尺、行路極めて平坦で驛から八丁、夏季は避暑客が多い。次は野田城驛で笛の名人村松芳休の嚙喰たる妙音に誘はれて武田信玄が狙撃せられた野田城址へは僅かに五丁。更に新城驛に入ると菅沼定盈の墓がある。此の地は豊橋以北の小都會で、新城區裁判所・帝室林野局名古屋支局新城出張所・縣立蠶業學校を始め高等女學校等があつて商工業亦盛んである。此の驛より約十丁、東新町より五丁で櫻の名所櫻淵に至ることが出来る。豊川鐵道の終點は長篠驛で豊川・鳳來寺兩線の接続する所である。此の驛を距る十四町餘寒狭川・三輪川二流交叉の處に長篠古戰場址があつて、附近一帯は武田・徳川・織田三氏の古戰場である。長篠役は天正三年五月甲斐の武田勝頼が、家康の臣奥平信昌を此の地に圍みたるに起因す。此の時鳥居強右衛門の最後は人口に膾炙せる處であつて、その墳墓は今も鳥居驛より一町餘の寒狭川畔に存在してゐる。其の他この合戦に戦死せる甲將馬場美濃守信房・内藤修理亮昌豔・山縣三郎兵衛昌景・其の他の墳墓は今尙この地を中心として附近に散在し、行人をして低徊顧眄の情に堪えざらしむるものがある。

鳳來寺の舊時を偲ばむとするものは、鳳來寺口で田口鐵道に乗り換へれば僅かに三哩で鳳來寺驛に至る山麓から本堂薬師如来迄は九町を登る。同寺は推古天皇の勅願により僧利修の開創せる處。天臺・眞言の二宗を兼ねて居たが、今は合して眞言一宗となり、極めて古い由緒を有つて居る。全山の風物總て壯觀を極めたものであつたが、數度の火災に逢つて今日舊態を存せず、僅かに樓門並に東照宮祠などが尙昔時の面影を留めてゐる。東照宮は慶安四年の創立で、後度々修繕を加へられてゐるが、尙明かに徳川初期の様式を見るべきものがある。殊に此の山は阿蘇火山脈の終點に位し悉く火山岩で構成され、極めて斷壁千仞の奇勝に富み、夏季は夕方から曉へかけて靈鳥佛法僧鳴き、遠方の地から杖を引くものが多い。尙この田

口鐵道沿線は山寺の瀧・田峰の溪谷・東海一の長隧道・田峰の觀音・鹽津溫泉・添澤溫泉等勝景の地、遊覽の地に富んでゐる。

三河大野驛から行者越えに道を取れば鳳來寺へ最も近徑で、大野橋を渡ると八名郡大野町である。町はづれの天神山公園に不動瀧がある。此處から山吉田村阿寺迄は二里餘りで自動車の便がある。飛泉豊かな七折の瀧あり、高さ百二十五尺、阿寺の七瀧と稱し夏猶寒きを覺ゆる避暑地である。湯谷驛は所謂鳳來峽の中間で三輪川（板敷川）を隔てた對岸は縣道別所街道が坦々として北へのび、恰かも耶馬溪を見るが如き風趣をたゞへて居る。この流れに沿ひ小盆地から湧出づる溫泉がある。これを鳳來泉と謂ひ萬病に效驗ありとて、驛は此處にホテルを經營し旅客をして心行くまで享樂せしむる。三河槇原驛は佳景に富み幾多の鳳來峽名所がある。この地山深きに平地多ければ都人の別莊地として有望である。三河川合驛は本郷・御殿・振草を経て信州新野及び飯田に至ると、浦川中部を過ぎ久根銅山水窪に至る分岐樞要地點である。この驛から凡そ三十丁餘りで有名なる乳岩の巖洞我を呑むが如く眼前に迫る。更に登れば天空に聳ゆる雄大奇蹟たる天然石門に達す。其の美に打たれ茫然たらざる者はない。幾多巖層よりなる連峯の雅趣を一眸に收め、川合の村落は浮繪の如く眼界に入る。春の山を飾る石楠花・深山躑躅の咲き亂るゝ麗はしさ、夏の納涼・秋の紅葉に衣を染むべき地。この附近は多くの詩人墨客の杖を引くべき所である。更に開通を見たる三信鐵道を鳳來寺鐵道三河川合驛より接続して中部天龍を経て天下の絶勝天龍峽に沿ひて北伸し、天龍峽驛に於て伊那電鐵に連絡してゐる。されば豊川・鳳來寺・三信・伊那電の四社一體となつて中部日本を縦斷して飯田市を経て中央線辰野驛に達するに至つた。

尙、東海道鐵道沿線豊川鐵橋の以西では、御油驛の縣社御津神社・大恩寺・御油海岸等で、蒲郡は元西

郡と蒲形とを合せたもので、今は海水浴場の設けがあり、ホテル・料理店等完備し、風光頗る明媚にして夏季に各地から避暑に遊ぶ者が却々多い。名電で豊川を越え伊奈驛へ入る。この附近は伊奈城のあつた處で其の名を知られ、名電豊川線の分岐點であつて將來を囑目されて居る。國府は舊東海道で往時三河の國府があつた處で、同町の白鳥に總社があり、八幡村に國分寺と八幡社があつて、國府に關係淺からざるものである。西明寺入口の鷺坂等もよく知られて居る。八幡社の社殿は特別保護建造物で有名なものである。八幡村より東北二里餘りの山中にある財賀寺は、聖武天皇の勅願により行基の開創した名刹である。赤坂驛は古來から紅葉の名所で知られてゐる宮路山に近い。宮路山は持統天皇の舊蹟であつて山頂の遠望天下に絶し、春の蕨狩・秋の茸狩に佳く・長澤・山中・本宿は東海道古驛路で古くから知れてゐる。

次に東海道鐵道沿線を豊橋から東へ向へば、二川町の岩屋觀音・高師山・雲谷の普門寺・小松原の東觀音寺・鷺津の本興寺が歴史的に世上著聞の場所であるが、殊に岩屋觀音が其の最なるものであらう。それから八名郡方面では石卷山・石卷神社・本坂峠・嵩山正宗寺・月谷大洞窟等最も名ある處となつて居る。

更に渥美半島方面に於ては、渥美電鐵の沿線小池町には潮音寺がある。曹洞宗に屬し行基の開創せるものと傳へられて居る。この寺の觀音は潮道の觀音と稱し舊來有名なものである。師團口驛は、陸軍教導學校その他軍衙の所在地であつて、明治四十一年十一月第十五師團司令部が今の地に置かれて以來著しく發展したものであるが、大正十三年五月軍備縮小により第十五師團司令部を廢止せられ、今は第三師團の管下となつてゐる。串淺蜷の製造に於て有名なる大崎へは師團口より約一里である。芦原驛より十丁程で野依毘沙門天へ行くことが出来る。大清水驛附近には富士瓦斯紡績豊橋工場があり、老津谷熊・豊島の各驛より多賀壽命殿長仙寺の名刹へ何れも十三丁である。この寺は天平十七年行基の開創で現在の本堂は延寶

九年頃の建築である。天白・神戸の各驛を経て田原に入ると、此處は明慶年間戸田宗光の築いた田原城址がある。田原藩の老臣にして書畫を能くし詩文に長じ、更に海外の事情に通じたる渡邊華山の墓は同町城寶寺境内にあつて、三宅氏の祖兒島高德を祀る縣社巴神社は舊城址の一隅に鎮座するのである。又田原藩の執政で火技を研究し造船の法に長じ、後擧げられて藩政を掌つた村上藩政の墓も同町にあつて、片濱海水浴場へは同町より十八丁である。その他神明社・阿志神社・長興寺・泉村鸚鵡石・福江泉福寺・伊良湖岬石門・村松、豊川河口では神野新田・前芝など何れも三河の名所舊蹟として廣く紹介する價値がある。

◆ 観光地とハイキングコース

【鳳來寺と鳳來峽】

豊橋 電車1時間10分 鳳來寺驛 2K 鳳來寺 3K 湯谷温泉 2K 三河橋原 電車1時間15分 豊橋
72 錢

▲沿線附近名勝……豊川稻荷・長山遊園地・野田城址・長篠城址

【渥美半島・伊良湖岬】

豊橋 電車40分 三河田原 70 錢 堀切 5K 伊良湖岬 10K 福江 電車1時間 豊橋
46 錢

▲沿線附近名勝……渡邊華山の墓・田原城址・歌人磯丸ノ遺跡・日出石門・陸軍試砲場

【新箱根・蒲郡】

豊橋 電車20分 本宿 12K 3時間 蒲郡 30 錢 豊橋
45 錢

▲沿線附近名勝……宮路山・法藏寺・蒲郡海岸・竹島・大島・観光ホテル

商工業者人名

★ 豊橋商工會議所 内

◆ 商工業ノ御相談ナラ

〔商工業經營・店舗設計・ウキン
ド陳列裝飾・廣告圖案・文案・
商取引斡旋・金融一般〕

商工相談所へ！

〔相談日 毎月八日・十八日
午前九時ヨリ午後四時マデ〕

◆ 轉業ト金融ノ御相談ナラ

〔軍需品・輸出品・代用品
金 融 一 般 斡 旋〕

轉業相談所へ！

〔相談日 毎週火曜日
午後一時ヨリ午後五時マデ〕

秘密ヲ守リ無料ニテ御相談ニ應ジマス 精々御利用下サイ

商工業者人名目次

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	第一類 穀類・飼料・肥料・ 飲食料品・料理	
牛豚肉・鶏肉・生鳥・鶏卵	茶・茶道具	酒・味噌・溜・醬油・酢醗蔬菜	酒・味噌・溜・醬油	水	清冷飲料水	鹽	菓子・煎粉・餅・餡・餡	砂糖・氷砂糖	粉類・製粉	糝	肥料	飼料	米・雜穀		
六	六	六	三	元	元	元	四	三	三	二	〇	八	一		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
繭問屋	纖維商工業・被服・ 同材料及附屬品・装 身具・染色	牛乳・同搾取	酒場・喫茶	饅飩・蕎麥	洋食料品・洋食器	西洋料理	穀料	飲食・仕出し	料理・席貸	豆腐・油揚・蒟蒻・蕪	果物・乾物	漬物・佃煮・罐詰・青物	海産物製造	鮮魚・川魚	
五		五	五	五	五	五	四	四	四	四	三	三	三	三	
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
洋物・洋品・雜貨類	防水マント・日覆	洋服・洋裁生地	和服・ミシン裁縫	工・紐	織物・漁網・セロファン加	呉服・太物・モスリン	絹・綿	綿・蒲團・蚊帳・眞綿	紡績業	絲類・撚絲	眞田製造・麻絲連續	再整絹絲製造	屑繭・生皮苧	製絲業	乾繭取引員
三	三	九	九	八	八	八	八	八	七	七	七	七	七	六	六

4	火災保險	一六三
3	保險代理	一六二
2	砂利採取・運搬・販賣	一六一
1	請負(土木・建築・電氣工事)	一五九
第六類 特殊商工業		
22	兔皮・兔肉	一五八
21	額・椽	一五七
20	磨砂	一五六
19	刷毛	一五五
18	雲母	一五四
17	種子	一五三
16	刀劍	一五二
15	銃砲・火藥・煙火	一五一
14	籠製造	一五〇
13	葬具	一四九
12	漆器・佛具	一四八
11	古物・襪襖・屑物	一四七
10	看板製作・塗裝・際物・裝飾	一四六
5	倉庫	一六三
6	土地・家屋賃貸	一六二
7	瓦・斯	一六一
8	鹽元賣捌	一六〇
9	運送・貨物運輸	一五九
10	自動車旅客運輸	一五八
11	電燈・電力供給	一五七
12	電氣鐵道	一五六
13	銀行	一六六
14	周旋(土地・其他)	一六五
15	紹介(藝・娼妓・看護婦)	一六四
16	金錢貸付	一六三
17	質屋	一六二
18	株式問屋	一六一
19	旅館	一六〇
20	寫眞	一五九
21	劇場・映畫	一五八
22	石版・活版印刷	一五七
23	驛賣店・構内立賣	一五三
24	養鶏・種鶏・孵卵	一七四
25	無盡業	一七三
26	西洋洗濯業	一七二
27	オブライト製造	一七一
28	造船	一七〇
29	セロファン加工	一六九
30	貿易商	一六八

18	化粧品・小間物	一六八
19	袋物・眼鏡	一六九
20	壘製造	一七〇
21	靴・鞆・馬具・軍用雜貨	一七一
22	履物・和傘	一七二
23	古着	一七三
24	國旗・提燈	一七四
25	染物・洗張・悉皆・消防服	一七五
26	百貨店	一七六
第三類 油・藥・染料・塗料・建築材料・木材・石材		
1	油類	一〇七
2	藥品・藥類・染料・塗料・オブライト	一〇八
3	石炭・コークス・煉炭	一〇九
4	薪炭	一一〇
5	硝子器具・板硝子	一一一
6	左官材・セメント・石灰	一一二
7	石材・石材加工	一一三
8	陶磁器・硬質陶器・タイル・瓦・煉瓦・土管	一一五
9	竹	一一六
10	木材・製材	一一七
11	木箱製造	一一八
12	折箱製造	一一九
13	割箸	一二〇
14	桶・樽製造	一二一
15	綠物・木管	一二二
第四類 金屬・同製品・機械器具・娛樂器具		
1	金物・双物・鍍力細工・理髮器具	一三五
2	鐵工・鍛冶	一三七
3	時計・同附屬品・貴金屬	一三三
4	機械器具(製絲・精米・製材用)・ミシン	一三三
5	農具	一三四
6	電氣機械器具・ラヂオ・電氣工事請負	一三五
7	理化學器・醫療器・齒科材料	一六八
8	自轉車・オートバイ・自動車修繕	一七〇
9	タイヤ修繕	一七一
10	車製造	一七二
11	樂器	一七三
12	玩具・運動具	一七四
13	寫眞器・同器具	一七五
第五類 其他ノ物品取扱業		
1	書籍・雜誌・文房具	一四三
2	紙・帳簿	一四五
3	印刷	一四六
4	團扇・ポール函・荷札	一四六
5	荒物・雜貨	一四七
6	建具・家具・指物	一四九
7	籐製品・乳母車	一五一
8	壘製造・壘表・英産	一五二
9	麻苧・漁網・ロープ・船具	一五二

乘合自動車	農具・金物	農業藥品	海業	兔皮・兔肉	運送	請負(土木・建築・電氣工事)	雲母	乳母車・籐製品	團扇	運具	艦艇	魚料	無盡業	麥米・雜穀			
六ノ10	四ノ5	四ノ1	三ノ2	一ノ16	五ノ22	六ノ9	四ノ18	五ノ7	五ノ4	四ノ12	一ノ24	一ノ15	一ノ1	六ノ21			
化粧品・小間物	鶏卵・鶏肉	絹紡原料	萬年筆	萬年筆	藥品・藥種	軍服・洋服	練物・襪	軍用雜貨	車用雜貨	靴・皮鞋	菓物・青物	藥	藥	藥			
二ノ18	一ノ14	二ノ5	五ノ1	二ノ1	三ノ2	二ノ15	三ノ15	五ノ11	四ノ10	二ノ21	二ノ21	一ノ4	一ノ17	三ノ2			
佛具・漆器	古着・古道具	古着・古道具	古着・古道具	古着・古道具	筆	文房具・書籍	鍔力細工・金物	古着	袋物・眼鏡	太物・呉服	豚肉・牛肉	蒲團・蚊帳	藪・藪	繭絲・間屋	下駄・齒板・履物	藝妓紹介	繭絲・間屋
五ノ19	五ノ12	五ノ11	五ノ11	五ノ9	五ノ1	五ノ1	四ノ1	二ノ23	二ノ19	二ノ12	一ノ14	二ノ10	一ノ18	二ノ1	六ノ15	二ノ22	二ノ1

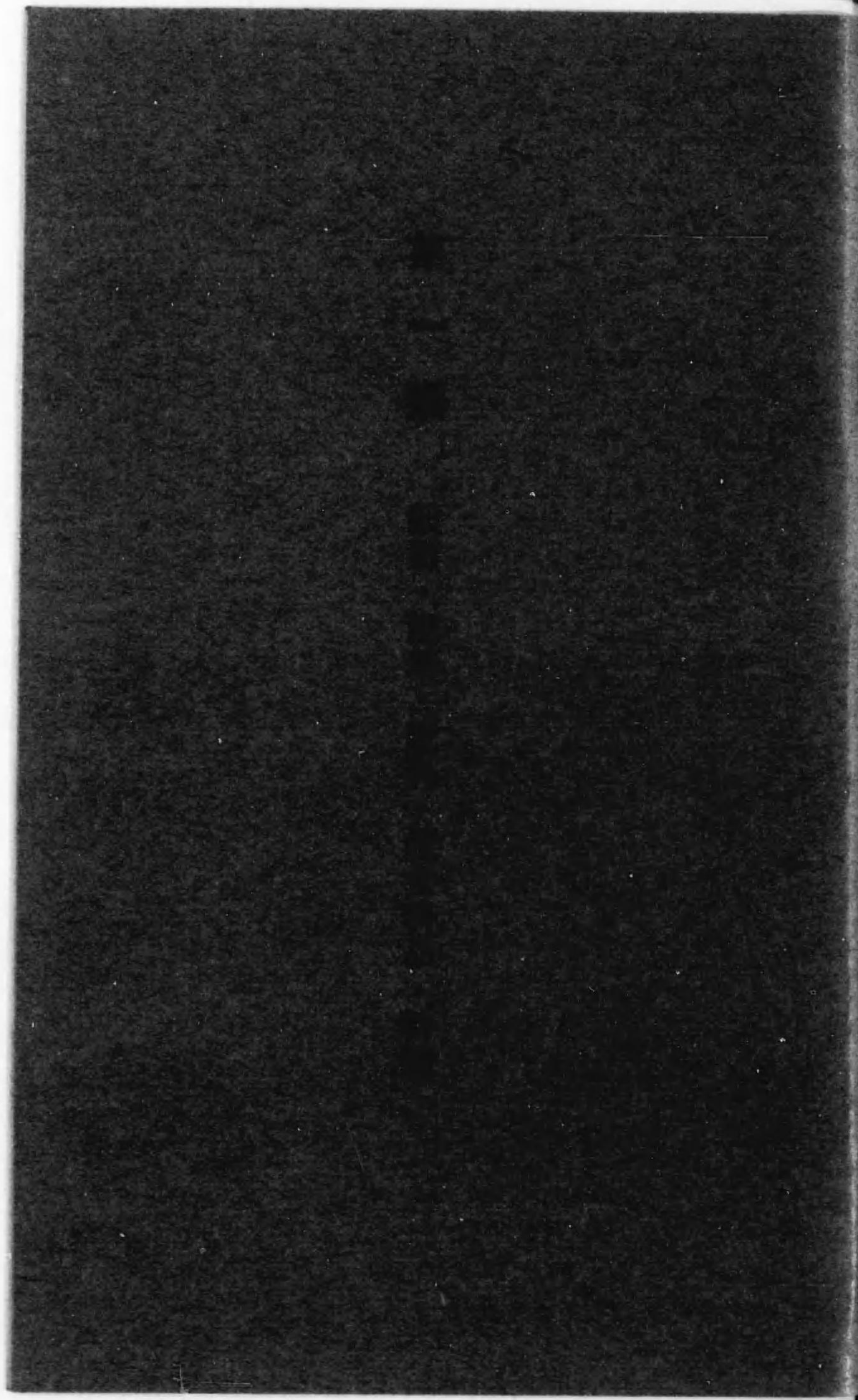
洋裁生地	洋食料品・洋食器	養鶏飼料	活版・印刷	株式問屋(有價證券)賣買	金貨	貨物自動車	貨物運輸	瓦	家屋・土地賃貸	火災保險	火藥・銃砲	カーバイド	化學工業藥品	籠	看板製作・ペンキ塗	家具・建具・指物	カレンダ
二ノ15	一ノ23	一ノ1	六ノ21	六ノ18	六ノ16	六ノ9	六ノ9	六ノ7	六ノ6	六ノ4	五ノ15	三ノ5	三ノ2	五ノ14	五ノ10	五ノ6	五ノ4
種	樟子	墨ノ堅絲製造	墨	建具・指物	箆筒	竹	タイル・陶磁器	足袋	玉絲問屋	玉絲製造	卵・鶏肉	タオル製造	タイヤ修繕	溜	養鶏・種鶏	洋物・洋品・雜貨	洋服
五ノ17	三ノ14	二ノ13	五ノ8	五ノ6	五ノ6	三ノ9	三ノ8	二ノ17	二ノ2	二ノ4	一ノ14	二ノ12	四ノ9	一ノ11	六ノ23	二ノ17	二ノ15
羅	ラ	繩	納	攪	漬物・佃煮	造倉	染物・洗張	蕎麥・饅頭	煉瓦・土管・瓦	煉瓦・土管・瓦	煉瓦・土管・瓦	煉瓦・土管・瓦	煉瓦・土管・瓦	煉瓦・土管・瓦	煉瓦・土管・瓦	煉瓦・土管・瓦	煉瓦・土管・瓦
二ノ15	四ノ6	五ノ9	一ノ12	二ノ8	一ノ17	六ノ27	六ノ5	五ノ13	二ノ25	一ノ24	三ノ3	三ノ8	三ノ8	三ノ8	三ノ8	三ノ8	三ノ8

牛豚肉	喫茶酒場	絹皮	生絲製	漁網	絹織物	生絲問屋	生皮芋屑	揮發油類	木箱製造	貴金屬時計	機械器具	漁網船具	際物裝飾	銀錢行	金銀細工		
一ノ14	一ノ25	二ノ4	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18		
有價證券買賣	綿擔絲業	メリヤス・シヤツ	眼鏡・袋物	銘木・床材	磨砂	味噌・醬油・溜	蜜製	味淋	ミシン裁縫	ミシン販賣	織布	鹽	飼料・雜穀				
六ノ18	二ノ8	二ノ17	二ノ19	三ノ10	五ノ20	一ノ12	一ノ6	一ノ12	二ノ14	四ノ4	二ノ13	一ノ8	一ノ2				
醬油・味噌	仕出し・飲食	仕立・和洋裁縫	消防服	悉皆・染物・洗張	薪炭・コークス	齒科材料	自轉車・オートバイ	自轉車修理	自動車修繕	寫真機	書籍・雜誌	白木・製材	漆器・佛具	銃砲・火藥	種子		
一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11		
雜糖・米・麥	雜粉・小麥粉	砂糖・氷砂糖	蠶具	魚酒	酒場・喫茶	再整絹絲	裁縫	左官材料	酸素銻接・鐵工	雜貨・荒物	木材・製材	指物・家具	砂利採取・販賣	牛乳・同搾取			
一ノ1	一ノ5	一ノ6	四ノ6	四ノ6	六ノ11	六ノ12	一ノ7	一ノ7	一ノ17	一ノ18	二ノ25	三ノ1	五ノ9	五ノ9	五ノ9		
米・穀類	小麥粉・雜粉	氷砂糖・砂糖	昆布製造・海產物製品	藥	子供服	吳服・太物・モスリン	小間物・化粧品	國旗・提燈	コークス・煉炭・薪炭	古物	莫產・疊表	構内立賣・驛賣店	糍董	骨董	驛賣店・構内立賣	鹽干魚	
一ノ1	一ノ5	一ノ6	一ノ10	一ノ16	二ノ15	二ノ12	二ノ18	二ノ24	三ノ3	五ノ11	五ノ8	六ノ22	一ノ4	六ノ22	一ノ16		
蹄鐵・鐵工	鐵工・鍛冶	電氣機械・器具	電氣工事請負	電燈・電力供給	電氣鐵道	餡菓子	餡菓子	餡菓子	青物・果物	油揚・豆腐	麻眞田・麻糸連續	雨具	洗張・染物	油類	荒物・雜貨	麻苧・漁網・ロープ	網・ロープ・船具
四ノ2	四ノ2	四ノ6	四ノ6	六ノ11	六ノ12	一ノ7	一ノ7	一ノ7	一ノ17	一ノ18	二ノ6	二ノ16	二ノ25	三ノ1	五ノ9	五ノ9	五ノ9
雜糖・米・麥	雜粉・小麥粉	砂糖・氷砂糖	蠶具	魚酒	酒場・喫茶	再整絹絲	裁縫	左官材料	酸素銻接・鐵工	雜貨・荒物	木材・製材	指物・家具	砂利採取・販賣	牛乳・同搾取			
一ノ1	一ノ5	一ノ6	四ノ1	四ノ1	一ノ3	一ノ11	一ノ12	一ノ15	二ノ14	二ノ14	三ノ6	四ノ6	五ノ10	六ノ2	一ノ26		

牛豚肉	喫茶酒場	絹皮	生絲製	漁網	絹織物	生絲問屋	生皮芋屑	揮發油類	木箱製造	貴金屬時計	機械器具	漁網船具	際物裝飾	銀錢行	金銀細工		
一ノ14	一ノ25	二ノ4	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18	二ノ17	二ノ18		
有價證券買賣	綿擔絲業	メリヤス・シヤツ	眼鏡・袋物	銘木・床材	磨砂	味噌・醬油・溜	蜜製	味淋	ミシン裁縫	ミシン販賣	織布	鹽	飼料・雜穀				
六ノ18	二ノ8	二ノ17	二ノ19	三ノ10	五ノ20	一ノ12	一ノ6	一ノ12	二ノ14	四ノ4	二ノ13	一ノ8	一ノ2				
醬油・味噌	仕出し・飲食	仕立・和洋裁縫	消防服	悉皆・染物・洗張	薪炭・コークス	齒科材料	自轉車・オートバイ	自轉車修理	自動車修繕	寫真機	書籍・雜誌	白木・製材	漆器・佛具	銃砲・火藥	種子		
一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11	一ノ12	一ノ11		
雜糖・米・麥	雜粉・小麥粉	砂糖・氷砂糖	蠶具	魚酒	酒場・喫茶	再整絹絲	裁縫	左官材料	酸素銻接・鐵工	雜貨・荒物	木材・製材	指物・家具	砂利採取・販賣	牛乳・同搾取			
一ノ1	一ノ5	一ノ6	四ノ6	四ノ6	六ノ11	六ノ12	一ノ7	一ノ7	一ノ17	一ノ18	二ノ25	三ノ1	五ノ9	五ノ9	五ノ9		
米・穀類	小麥粉・雜粉	氷砂糖・砂糖	昆布製造・海產物製品	藥	子供服	吳服・太物・モスリン	小間物・化粧品	國旗・提燈	コークス・煉炭・薪炭	古物	莫產・疊表	構内立賣・驛賣店	糍董	骨董	驛賣店・構内立賣	鹽干魚	
一ノ1	一ノ5	一ノ6	一ノ10	一ノ16	二ノ15	二ノ12	二ノ18	二ノ24	三ノ3	五ノ11	五ノ8	六ノ22	一ノ4	六ノ22	一ノ16		
蹄鐵・鐵工	鐵工・鍛冶	電氣機械・器具	電氣工事請負	電燈・電力供給	電氣鐵道	餡菓子	餡菓子	餡菓子	青物・果物	油揚・豆腐	麻眞田・麻糸連續	雨具	洗張・染物	油類	荒物・雜貨	麻苧・漁網・ロープ	網・ロープ・船具
四ノ2	四ノ2	四ノ6	四ノ6	六ノ11	六ノ12	一ノ7	一ノ7	一ノ7	一ノ17	一ノ18	二ノ6	二ノ16	二ノ25	三ノ1	五ノ9	五ノ9	五ノ9
雜糖・米・麥	雜粉・小麥粉	砂糖・氷砂糖	蠶具	魚酒	酒場・喫茶	再整絹絲	裁縫	左官材料	酸素銻接・鐵工	雜貨・荒物	木材・製材	指物・家具	砂利採取・販賣	牛乳・同搾取			
一ノ1	一ノ5	一ノ6	四ノ1	四ノ1	一ノ3	一ノ11	一ノ12	一ノ15	二ノ14	二ノ14	三ノ6	四ノ6	五ノ10	六ノ2	一ノ26		

露光量違いの為重複撮影

殖産	鹽元賣捌	自動車旅客運輸	周旋(土地)	紹介(藝・娼妓・看護婦)	質屋	寫眞	人工孵化	肥料	紐	日覆・防水マント	百貨店	餅	モスリン・呉服	モビール油・油類	
六ノ六	六ノ八	六ノ一〇	六ノ一六	六ノ一五	六ノ一七	六ノ二〇	六ノ二三	一ノ三	二ノ一三	二ノ一六	二ノ二六	一ノ七	二ノ一七	三ノ一	
木材・製材	モートル・電氣器具	毛筆	木管・練物	生鶏	清涼飲料水	鮮魚・川魚	席貨	西洋料	西洋洗滌	石鹼	石油・油類	石版・印刷	染料・塗料	石炭	セメント
三ノ一〇	四ノ四	四ノ六	五ノ一	三ノ一五	一ノ一四	一ノ九	一ノ一五	一ノ一九	一ノ二二	六ノ二五	二ノ一八	三ノ一	六ノ二一	三ノ二	三ノ三
石材・石材加工	製絲	精米	製材	製絲	製本	製氷	製粉	製材	西洋家具	船具・ロープ・漁網	セロファン加工	セロファン織物及テープ	酢製造	壽司・仕出し	
三ノ七	四ノ四	二ノ四	五ノ二	一ノ一〇	一ノ一〇	三ノ一〇	五ノ六	五ノ六	五ノ九	六ノ二八	二ノ一三	一ノ一三	一ノ一三	一ノ二〇	



商工業者人名

第一類 穀類・飼料・肥料・飲食料品・料理

1

米・雜穀

營業種目	住所	商號	氏名	名稱	電話番號
米	關屋町	益	伊藤	文三	二三六三
同	船町	信	伊藤	信一	二七五〇
同	下地町字茶ノ木	梅	伊藤	梅吉	五五一四
同	中世古町	米平	伊藤	よ	三二六六
雜穀・飼料・肥料	下地町字豐麻	榊屋	磯村	彌八	三〇五九 三三六九
米	船町	大津屋商店	石原	五郎	三三七六
同	花田町字松山	石原精米所	石原	龍次	四三五九
同	松葉町	伴	野	乙吉	三三一三
同	手間町	示	堀部	常太	三六四三

米	雜	同	同	同	米	雜	米	同	米	雜	同	同	米	玄米・雜穀・飼料
穀	穀	穀			穀	穀・飼料	穀	服	炭	料			穀	
花田町字城海津	同町	東小田原町	花田町字城海津	新川町字新錢	北島町	關屋町	下地町字茶ノ木	東田町字北臨濟寺	中八町	下地町字豐麻	花田町字流川	曲尺手町	小池町字原下	下地町字東
食	高田商店	カ	カ	三	善	三和商會	川	合	力	令	卜	余	一	平
田	高	高	上	龜	金	片	川	河	河	河	河	加	加	渡
中	田	津	西	井	田	桐	合	合	合	合	邊	藤	藤	邊
三	長	耕	し	勘	秀	開	專	儀	嘉	三	薰	治	太	德
平	平	ん	六	一	助	助	二	一郎	平	郎	郎	郎	郎	次
	四〇五二	四三〇二			三九二六	四八七三	五五三九	四六五〇	三二〇二	二七〇七	四七三五	五一五〇	三五三六	

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	米	米	米
															穀	穀	穀
花田町字東郷	向山町字南下畑	同町字中郷	同町字流川	花田町字大山塚	柳生町	東小田原町	船町	旭町字旭	松葉町	瓦町字通	旭町字旭	山田町字西山	花田町字寺東	手間町			
田	七	信	金	父	合	合	合	お	夕	米	下	奈	示				
大	小	荻	小	小	小	折	折	近	近	富	戸	外	星	堀			
橋	木	原	野	野	野	山	山	田	田	田	田	山	野	部			
貞	會	仙	田	田	田	儀	利	繁	勇	米	田	德	逸	誠			
雄	由	太	信	賢	嘉	市	一	吉	一	次	要	治	次	次			
	太郎	太郎	吉	太郎	市	市	一	吉	一	郎	郎	郎	次	次			
	五一二四	五〇六一	四〇一六	二四七二	二六三一	三九一二	二〇八二	三六七八	五一二七	四三六二			三四五〇	四五六八			

同	同	同	同	同	同	米	同	雜穀・飼料・肥料	同	同	同	同	同	同	米	穀
花田町字東郷	三浦町	松葉町	花田町字石塚	中柴町字道六	旭町字旭	東八町	同町字豊麻	下地町字東	花田町字松山	西小田原町	曲尺手町	新川町字市南	東小田原町	西新町		
船井精米所	ㄗ	ㄗ	加島屋	ㄗ	ㄗ	ㄗ	ㄗ	ㄗ	ㄗ	ㄗ	ㄗ	ㄗ	ㄗ	ㄗ		
船	深	古	牧	牧	松	松	山	山	山	山	山	山	内	内		
井	谷	居	野	野	井	井	本	本	本	本	本	田	山	田		
市	秋	七	幸	信	つ	末	高	勇	福	き	一	喜	喜	健		
五	藏	三	平	夫	ま	治	郎	一	次	ぬ	郎	次	一	一		
	作	郎	平	夫	ま	治	郎	一	次	ぬ	郎	次	一	一		
	四九六七	五四四九	三六〇四	四〇七九	二六五四	二〇五二	三六六七	二二六五	三五五六	二九八〇	四五一五	五一六八	二二二六	三八三五		

雜穀・肥料	米	雜穀・砂糖	同	同	同	同	同	同	同	米	同	同	同	同	米	穀
東田町字西脇	船	旭町字旭	中柴町字中柴	東田町字北臨濟寺	下地町字東	同町字餌指	旭町字旭	同町字城海津	花田町字中郷	小	吉	花田町字狭間	花田町字西宿	神明町		
旭	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦		
屋	大橋屋	村	村	村	夏	内	中	中	中	中	園	武	武	田		
宇	村	村	村	村	目	藤	野	中	津	村	部	田	田	田		
野	田	田	田	田	登	登	文	根	川	村	良	貫	嘉	武		
澤	佐	重	重	松	二	二	一	俊	繁	繁	良	貫	嘉	武		
嘉	一	政	男	作	郎	郎	郎	次	吉	豐	一	一	市	藏		
吉	一	政	男	作	郎	郎	郎	次	吉	豐	一	一	市	藏		
四八三二	四〇五一	四四四五	三八六九	四一八四	四四〇一	四四〇一	四一八五	五四三八	三二七八	五五四八	二四五一	二二二六	二二二六	三八三五		

飼料・雜穀	松坂町	全	鈴木秋次郎	五一八
飼料・肥料・米穀	下地町字豐中	一	鈴木貞吉	三三六
養鶏飼料・米・雜穀	花田町字久保田	ⓑ	豐橋飼料合名會社	二九六 四三六 九三七
飼料・肥料・蛹油	牟呂町字扇田		ユタ力産業株式會社	三七八〇

3

肥料

肥料	南榮町字空池	傳	伊藤一朗	三八三〇
同・飼料・雜穀	西新町		磯部英一	二九七八
同・飼料・雜穀	下地町字豐麻	耕屋	磯村彌八	三〇五九 三三六九
肥料	關屋町	和泉屋	今泉福太郎	二四二七
蛹肥料・飼料	花田町字大塚	ⓐ	大谷德三郎	五三五六
魚屑・飼料	新川町字市南	あらや	金子榮	三六六八
蛹肥料	前田南町	桂	神村桂次郎	三六六八
雞糞	花田町字寺東	北海屋	高山松吉	三六四四
肥料	船町	清須屋	中西猪作	二六八三

肥料・雜穀	東田町字西脇	旭屋	宇之澤嘉吉	四八三二
蛹肥料・飼料	花田町字大塚		熊田嘉平	五一一六
肥料	北島町	丸三商店	山本與一	四〇五〇 五〇一〇
肥料・雜穀・飼料	下地町字東	△	山本勇一	三六六七
同	同町字豐麻	△	山本高太郎	二〇五二
同	西小田原町	全	山本きぬ	三五五六
同	菰口町		小林良雄	三四八五
蛹商	向山町字池端	全豐橋精練所	小口莊一郎	三四五五
肥料	下地町字豐中	一	鈴木貞吉	三二三六
肥料・養鶏飼料	關屋町		合資會社内藤商會	二四二五
肥料・製氷・冷藏	花田町字池田		日本水產株式會社	二五四八
脫脂肥料	北島町字高田		株式會社光明麥精麥所	二一八三
肥料・飼料・蛹油	牟呂町字扇田		ユタ力産業株式會社	三七八〇

4

糞

糘製造西新町 平井政雄

5 粉類・製粉

製粉・砂糖	吉田町	柳屋	林清	四〇七四
製粉	花田町字寺東	◎奈	星野逸次	三四五〇
粉類	西八町	◎大	大森正二	五〇一七
同・小鳥飼料	魚町	澤田屋	白井卯一	三二三〇
製粉・うどん	牟呂町字桶口下	◎力	白井寛治	三二三〇
煎餅	中柴町字道六	森平	廣田庄三郎	二七二二
小麥粉・砂糖	紺屋町	洋風堂	鈴木兵助	二四七八
製粉	下地町字豐麻	柏屋	杉江重太郎	二二二一
各種粉類	吳服町	合資會社山田屋商會	合資會社山田屋商會	二五五一
小麥粉・砂糖	萱町	◎籬	株式會社福谷商店豐橋支店	五五〇〇 三〇〇〇 〇五五

6

砂糖・氷砂糖

砂糖・製粉	吉田町	柳屋	林清	四〇七四
同・乾物	魚町	加納屋	鳥居清一	二三六七
氷砂糖・蜜製造	花田町字南新起	旭氷糖商會	小田實	二六八二
砂糖・味噌・溜	魚町	◎田	田中新	五〇〇一 二〇〇三 五〇二七
同・油・味噌・溜	新川町字新錢	米代	中村代助	二九〇九
同・雜穀・雜貨	旭町字旭	◎籬	村田政	四四四五
砂糖・溜	花田町字松山	山本屋	山本たね	三三四六
同	新川町字市南	三德	牧野廉	三三八四
砂糖・油	船町	◎本	榎本平	四一一三
同	花田町字城海津	明治屋	天野正二郎	三〇三六
同・醬油・味噌	湊町	江川屋	金原竹太郎	五〇三六
同・紙・雜貨	曲尺手町	◎富屋	白井玄やう	二四二三
同	紺屋町	洋風堂	鈴木兵助	二四七八
同	曲尺手町	◎春	鈴木春海	二四七八
同	小麥粉	◎籬	株式會社福谷商店豐橋支店	五五〇〇 三〇〇〇 〇五五

館製	清水町	内藤製船所	小澤銀次郎	四九九七
館製	東小田原町	尾原三光堂	尾原三樹雄	四一三四
ゼリー・翁飴製造	前田南町	介	渡邊久五	二八五六
飴菓子製造	花田町字中郷	松井商店	松井利雄	四七三七
館製	湊町	根津製船所	古澤辰之助	四七三七
同	花田町字松山	名古屋製船	浅井善四郎	三〇四二
しる粉・飲食店	吳服町	大手しるこ	新村武	四四六七
飴・ゼリー・食料玩具	花田町字野黒	三河屋	水鳥松一	四五〇三
煎粉	中柴町字道六	森平	廣田庄三郎	二七二二
ゼリー・菓子製造	北島町		昭和製菓株式会社	三〇七〇
和洋菓子	萱町		森永製品株式会社	五四五五
菓子・パン	神明町		敷島製パン株式会社	四一四九
菓子	札木町		合資會社高田屋商店	三七四七
ゼリー・飴菓子製造	花田町字大塚	丸二	丸二製菓合名會社	三九二八
ゼリー製造	鍵田町		合名會社杉本屋商店	五三九四

8

鹽

鹽元賣捌船町

東三鹽業合名會社 二二一〇

9

清涼飲料水

清涼飲料水製造	下地町字茶ノ木	大ニ商會	鳥井伊吉	四四四九
同	花田町字松山	カゴメ	近藤竹次郎	二七五七
同	新川町字新錢	大。	合資會社大丸商會	二一五〇
同	船町	㊦	合名會社丸三商會	二八七五
同	關屋町	マルタ	株式會社マルタ商會	二五四九
同	舟原町	鹽屋商店	合資會社鹽屋商店	二九六九

10

氷

氷問屋・薪炭	西八町	小野屋	富田定吉	三九〇七
同	西新町	内田商店	内田七藏	

水問屋・玩具・菓子	花田町字手棒	山内商會	山内儀	一	三四六八
水問屋	松葉町	④	間瀬眞太郎	二	二一三九
水・薪炭	花田町字南新起	⑧	鈴木春二	二	二二七三
同・砂糖	紺屋町	⑦	鈴木兵助	四	四七七三
同・薪炭	富本町	⑦	鈴木和	三	三八二一
製氷・冷蔵	湊町		大正製氷冷蔵株式會社	三	三三五二
製氷・冷蔵・食料品	花田町字池田		日本水産豐橋冷凍工場	二	二五四八
飼料・肥料					

11

酒・味噌・溜・醬油

酒	西・新町	三河屋	井出	誕生	二〇八三
同	前田町	⑤	伊藤金一郎	三	三五六四
同	牟呂町		伊藤喜代太郎	三	三九三三
同	花田町字大塚	⑤	伊藤政男	五	五〇六四
同	下地町字豐麻	①	伊藤英一	七	五一一九
同	花田町字牟呂街道		岩間伊七		

酒	花田町字西宿	九	石原重助	助	三五一四
同	東田町字北臨濟寺	⑥	石川源助	三	四六五五
同	同町字西脇		石川黑傳三	郎	五二九一
味噌溜	船町	會	今川伊三郎	進	三八七九
酒・雜貨	向山臺町		畑中富之進	郎	二六四〇
同	新川町字新錢	可	波多野德三	作	二九三二
同	松葉町	可	早川幸	作	四六三六
同	小池町	本	葉山	助	三七五三
同	魚町	三	橋詰政行	次	四八七〇
同	松葉町	三	伴政次	次	二五二六
同	吳服町	三	伴隆次	郎	三三一二
同	花田町字寺東	⑤	堀部吉五郎	雄	四〇七二
同	富本町字東郷	③	堀部密	次	五三二三
同	北島町	福	德島政	次	
同	前田町	知	大井	知	

酒	富本町字東郷	鱧屋酒店	鱧	五二九六
同・薪炭	花田町字南新起	⊗ 鱧屋酒店	鈴木春二	二二七三
同・味噌・醬油	札木町	大津屋	鈴木佐市	二一二三
酒	神明町	鈴木屋	鈴木繁太郎	五一一二
同	下地町字東	鈴木清	鈴木清十	二二二〇
味・噌・溜	新川町字新錢	野田醬油株式會社豐橋販賣所		四五二六
鹽・ビール	花田町字西宿	川清	株式會社川清商店	二〇六三
味・噌・醬油	西小田原町	川清	合資會社吉川商店	三三六四
酒・味噌・醬油	魚町	⊙ 九一酒店	合資會社牧野商店	五一〇八

12

酒・味噌・溜・醬油・酢釀造業

溜・酒釀造	小池町字角田	全	市川儀市	二二二九
溜釀造業	船町	松坂屋	今川伊三郎	五二九一
溜・味噌・納豆釀造	同町	イガヤ本家	服部彌八	二〇〇八
酒・味噌釀造	下地町字豊麻	⊕	永井仙十	二三〇三

酒釀造	花田町字百北	大津屋	中林平吉	二二五二(唐) 五四七三(工)
醬油釀造	南榮町字空池	天	大山銀藏	二五一〇
味噌・溜釀造	花園町	余	内藤要三郎	三三八〇
味噌・保險代理業	曲尺手町	⊙ 太田屋	内藤齋平	二四二四
同・溜釀造	新錢町	⊙ 太田屋	中村金八	三九九〇
酢釀造	下地町字東	⊕	浦川重右衛門	四二三〇
味噌・醬油釀造	植田町字車塚	⊕	近藤麻二	二五三九
酢釀造	北島町	麻久	木村廣	二六一七
味噌・溜釀造	曲尺手町	植杉屋	金原升太郎	五〇三六
同・砂糖	湊町	江川屋	宮津隆二	五三四二
味・噌・溜釀造	野田町	三龜	白井金重	
味・噌・溜釀造	往完町	桑名屋	平野彦太郎	
同	牟呂町字桶口下	桑名屋	杉浦助一	三五六〇
同	同町字市場	⊗	井ヅヘイ醬油合資會社	二二一四
同・納豆	船町	⊗		

味 噌・溜醸造	小池町字角田	全	市川味噌溜醸造株式會社	二二二九
酒 醸 造	花田町字齋藤	伊勢屋	合名會社伊勢屋商店	五一四五
味 噌・溜醸造	横須賀町	干	合名會社小田商店	三四三五
同	關屋町		合資會社田新醸造部	二〇五〇
酒 釀 造	花田町字守下	仲六	合名會社仲六商店	五〇〇六
酒・味噌・醬油	西新町		合資會社服部伊賀屋商店	二二五七
味 噌・溜醸造	花田町字齋藤	■大津屋	大津屋株式會社豐橋工場	二九一八
葡萄酒製造	瓦町字臨濟寺前		合資會社柏屋商店	

13

茶・茶道具

茶	松葉町	小野田五平	
同	・茶道具	太田おを	二九三六
同		兵藤義一	四八八六

14

牛豚肉・鶏肉・生鳥・鶏卵

牛豚肉・料理	松葉町	花井八一	花井與市	二七四九
同	花田町字守下	内田商店	落合吉松	三九〇七
牛豚肉・氷	西新町	内田商店	中山七藏	
同	・生鳥	花田町字松山	中山七藏	三三四一
牛 豚 肉	南小池町		田島佐一	二六三五
同	中八町	西垣牛肉店	山田國平	
同	旭町字旭	櫻湯	古橋朝次郎	三三五七
牛 豚 肉	小池町字原下	全	小久保正男	四三三七
同	手間町	小林彌八精肉店	小林彌八	三六三三
同	松葉町	内田支店	小山も空	四三七九
同	中柴町字道六	榮屋	荒木利太郎	五四〇六
同	旭町字旭	ひろめ會	白谷幸一	四九二〇
豚 肉	吉田町	八	鈴木友作	四四八一
生 鶏 肉	新川町字新錢	鷺山	鈴木多三郎	
鶏 肉・生 鶏	本町	鳥綱	石井綱吉	二四一二

同	同	鮮	鰻	同	同	同	同	同	同	同	同	同	鮮	
		魚			・海産物	・海産物		・竹輪・蒲鉾				酒	魚	
紺	同	魚	牟	同	魚	松	同	魚	花田町字南新起	魚	旭	中柴町字中柴	瓦	指
屋	町	町	呂	町	町	町	町	町	町	町	旭	柴	通	笠
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	旭	柴	通	町
魚	魚	善	中	吉	魚	下	十	魚	念	介	三	大	干	干
甚	末	店	平	彦	德									
熊	中	中	中	中	瀧	竹	竹	田	高	加	河	兼	大	井
本	村	村	村	根	崎	森	内	邊	井	藤	合	子	林	本
久	壽	忠	重	平	吉	彦	藤	玉	藤	甚	幸	乙	政	重
吉	惠	治	治	三	次	兵	吉	次	吉	八	作	郎	一	治
二	四	七	八	六	三	九	〇	三	五	〇	九	六	九	四
五	六	五	五	四	三	〇	六	九	七	一	三	七	三	一
四	六	五	五	四	三	〇	六	九	七	一	三	七	三	一

三一

鮮	同	雞	雞	同	雞	兔	鶉	生	雞	雞	雞	雞	鶉
魚	肉・生	肉・生	肉・生	肉・生	肉・生	肉・兔	卵・鶉	鳥・雞	肉・生	卵	卵	卵	卵・養
	雞	雞	雞	雞	雞	皮	鶉	肉	雞	卵	卵	鶉	鶉
	札	中柴町字道六	札	花田町字東郷	神	西小田原町	中世古町	中柴町字道六	荳	瓦	同	花田町字稗田	
新川町字市南	木	道六	木	東郷	明	原町	古町	道六	町	町	町	町	
介	町	六	町	郷	町	町	町	六	町	町	町	町	
	羽	鳥	文	共	鳥			鳥	新中村屋	東三鶏業組合	谷		
市	合資會社丸鳥白井商店	合資會社丸鳥白井商店	合資會社丸鳥白井商店	千賀	瀨野	兵藤	樋田	坂柳	牧野	中神	神谷	磯田	
川	白井商店	白井商店	白井商店	德太郎	尾蝶	藤	善治	富次郎	野縫	神悅	谷昇	田太	
正	三三六六	四一七一	五二八九	太郎	一	一	治	郎	次	二	治	作	
男	三三六六	四一七一	五二八九	太郎	一	一	治	郎	次	二	治	作	
	三三六六	四一七一	五二八九	太郎	一	一	治	郎	次	二	治	作	

15

鮮魚・川魚

三〇

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	鮮	川	鮮
花田町字稻場	松葉町	花田町字西宿	福岡町	新錢町	東八町	松葉町	中柴町字中柴	清水町	上傳馬町	西小田原町	花田町字南島	中八町	花田町字稗田	魚	魚
⑦	⑧		⑨	魚	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	魚	魚	⑯	⑰	魚
森下健一	森田峯吉	彦坂三治	彦坂義男	白谷勇吉	酒井鑒次	坂牧實次	坂神愛次	寺田國太郎	安藤善一	福井德太郎	福山由太郎	牧市太郎	眞木惣吉	山本寬一郎	伊山本寬一郎
	四一七八	三九七四	四一四七	四二二〇	三四一七	四〇六五	二九五〇	四三八〇	三六〇六	三四一三	二六七八	二二六五			

川魚	鮮魚・鹽干魚問屋	同	鮮	川	同	鮮
花田町字北新起	魚	東小田原町	船	花田町字北新起	札木町	花田町字狹間
⑱	⑲	魚	魚	⑳	㉑	㉒
豐橋川魚問屋株式會社	株式會社豐橋魚市場	鈴木木菊平	鈴木木乙丸	鈴木木彌一	鈴木木唯七	鈴木木初藏
二五六五	二四〇八	三三七七	四四六九	四五七六	三〇八〇	五一〇九

16 海產物製造

(竹輪・蒲鉾・鯉節・海苔・昆布製造)

鹽干魚卸	海產物各種・罐詰	竹輪・蒲鉾	海產干物各種	竹輪・蒲鉾	鯉節
新川町字新錢	魚	松葉町	新川町字新錢	清水町	紺屋町
㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘
富田伊三郎	外山傳八	星野重雄	芳賀斧吉	石井良平	岩瀬文吉
二七二八	五五二五	三〇二三	二四五九	三四〇二	

竹輪・蒲鉾	海苔・桑	同	同	竹輪・蒲鉾	海産物各種	竹輪・蒲鉾	海産物	昆布製	竹輪・蒲鉾	海産物・各種	同	同	竹輪・蒲鉾	鹽干魚卸
新川町字市南	牟呂町字中村	同	魚	松葉町	魚	中世古町字中世古	舟原町	花田町字城海津	同	同	魚	花園町	新川町字市南	鹽干魚卸
全	源	久	辻	音	下	彦	洞	又	命	命	尾	園	全	鹽干魚卸
荻原甫	矢野吉	浪崎久太郎	辻本亦市	瀧崎吉次郎	立岩源次郎	竹内藤吉	高澤重作	金子廣治	川部伊三郎	加藤甚八	尾崎喜代次	尾崎喜代次	荻原甫	鹽干魚卸
二四三五	三九六九	二三一〇	四四六二	四九〇三	五〇九六	二七三一	五三五二	五〇八八	二四一三	四八五四	三九八一	三九八一	二四三五	鹽干魚卸

竹輪・蒲鉾	同	同	鹽干魚卸	鹽干魚卸	海産物卸	海苔問屋・青果物	同	鹽干魚	同	鹽干・鮮魚問屋	鹽干・冷凍魚	海苔問屋	海苔
清水町	紺屋町	關屋町	新川町字新錢	魚	吳服町	曲尺手町	關屋町	魚	花田町字池田	魚	牟呂町字中村	牟呂町字中村	牟呂町字中村
弁	㊦	㊧	㊨	㊩	八百源	㊪	㊫	㊬	㊭	㊮	㊯	㊰	㊱
佐藤善作	坂上次男	柴田五郎松	神藤寅吉	鈴木繁次	合資會社三米本店	倉橋源平	山田安吉	株式會社豐橋水産市場	株式會社豐橋魚市場	日本水産株式會社豐橋冷凍工場	山安海苔株式會社	合資會社山加加藤長平商店	合資會社山加加藤長平商店
二四三五	四七一二	三五七二	二三七三	四九九一	五〇三七	二三二二	二四一一	三二七三	二四〇八	二四五六	四一五三	三五六二	三五六二

漬物・佃煮・罐詰
青物・果物

料 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

理

小池町	西八町	松葉町	小池町字中沖	西八町	松葉町	上傳馬町	小池町字中沖	西八町	松葉町	上傳馬町	小池町字上ノ山	松葉町
松米	丁字	加納亭	川鰻	糸春	すゞめ支店	いづみ	満壽花	高津	相生	相生	みゆき	歌茶屋
渡邊	加藤	加藤	片山	河合	芳村	米本	横江	高津	田中	竹内	平内	内藤
はつ	よ	て	つ	ね	辰	よ	は	ま	や	雪	た	こ
ゑ	ね	る	理	ね	治	ね	な	つ	ゑ	子	か	ぬ
二二二	三七五	二六三	二一九	五一七	五二九	四七三	三七七		二六三	四一五	二〇四	四七二

四三

料 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

理

小池町字中沖	松葉町	小池町字中沖	橋良町字東郷	小池町字中沖	牟呂町字市場	西八町	上傳馬町	小池町字鴨田	札木町	小池町字中沖	西八町	松葉町	西八町	福岡町
平和亭	勢河	福繁	一新	岡田	萬樂	天	大文字	福梅	福梅	井筒	乙女	鳥善	清泉	福岡町
伴	新美	西野	星野	岡田	太田	太田	大川	尾崎	野田	小川	小川	小澤	渡邊	福岡町
安喜	和儀	は	は	兵	わ	末	義	権	権	玄	玄	じ	貞	福岡町
藏	儀	い	な	吾	り	吉	雄	一郎	ひ	げ	み	う	子	福岡町
五三	三六〇	四五	三七六	吾	二九	三六	四三五	五〇	二八	三八	二二	二一	二一	福岡町

四二

料
理

北丘町字北丘	入口屋	藤井る江	於	三八〇二
松葉町	美卷の	小林	於	二九一一
富本町字東郷	三好	小久保	ゆき江	四四三三
松葉町	美好野	出口	よし	四一六九
札木町	松花	阿部	す	二九二五
松葉町	一樂	荒居	か	三二〇四
魚町	うの丸	天野	圭助	四〇二五 四〇六四
東田町字五反畑	玉屋	安藤	ぎん	四五六三
上傳馬町	吉福	安藤	きぬ	五二八九
同	青木屋	青木	隆	三〇五六
松葉町	千年世	井隆	三	五四五六
富本町字東郷	坂牧屋	坂牧	彌	二八六三
上傳馬町	清月	清川	は	三三七三
松葉町	吳竹	湯淺	花	五三〇八
富本町字東郷	榮樂宮	脇	實	

・鰻料理

料
理

札木町	常盤	宮川	と	う	五三一一
小池町字中沖	朝日屋	白井	もと	と	三九六八
上傳馬町	喜久廻家	柴田	き	せ	二六一四
同	金春	清水	み	つ	四七四二
同	丸又	平松	せ	ん	三〇七六
本町	香月	兵頭	花	子	三二一八
小池町字深田	奴	森部	あ	さ	三九六五
上傳馬町	登喜和	望月	と	き	三〇八七
荳町	初音	杉浦	り	ね	四九五九
牟呂町		杉浦	玄	め	
松葉町	日の出	鈴木	い	し	四一三一
上傳馬町	壽々花	木ハ	ハ	ナ	三三四九
小池町字中沖	新田毎	鈴木	さ	く	五四〇九
松葉町	お多福	鈴木	木	清	三四四七
同		鈴木	木	吉	二四三九
同		山喜知	鈴	木	

料	小池町字中沖	一	福	鈴	木	四	一
同	上傳馬町	壽々米	鈴	木	す	ゞ	四五八二
同	同	伊東屋	合名會社	伊東屋			三〇三〇
同	松葉町	かどや	合名會社	かどや			二八三一
同	札木町	借樂亭	合名會社	借樂亭			二五八三
同	上傳馬町	八千久	合資會社	八千久			四三九七
同	富本町字東郷	福元	合資會社	福元			四七六六

20

飲食・仕出し

和洋料理	花田町字狭間	大だるま食堂	伊藤	藤	操	四七七六
同	同町字西宿	松開庵	犬飼	孫	一	四七九六
壽司・仕出し	松葉町	大木屋	石河	たみ		四五六五
和洋料理	花田町字狭間	㊦ 平和食堂	西崎	増三郎		四七五七
洋食・しるこ	吳服町	大手しるこ	新村	武		四四六七
和洋料理	花田町字西宿	大谷屋	大谷	末吉		五一二八

西洋料理	松葉町	菊宗	太田	宗市郎	二六七四
和洋料理	本町	浪花屋	大山	之	二三五一
すし・料理	西八町	藤本食堂	加藤	浅次郎	
同	中八町	廣小路食堂	河合	新助	二九七四
同	神明町	澤之鶴	高畑	正美	二八六六
飲	松葉町	大關	中神	菊次	三六〇〇
和洋料理・鰻料理	同	㊤	中山	要吉	二七四五
壽司・仕出し	札木町	だるま壽司	永吉	新一	三五六九
同	上傳馬町	天狗壽司	村松	綾太郎	
同	新錢町	壽司榮	倉木	嘉作	二六五九
和料理・酒	上傳馬町	公鷹	山内	茂	三五五三
和洋料理	花田町字狭間	つる屋食堂	松井	つる	四〇五〇
すし・仕出し・料理	札木町	常盤ずし	藤田	與四郎	二九二六
和洋料理	紺屋町	大手食堂	小久保	元代	三三七八

西洋料理・鰻	上 傳馬町	青 木 屋	青 木 吉 郎	五二八九
仕 出 し	新 錢 町	魚 せ き	水 野 匡 榮	三六五五
和 洋 料 理	東 田 町 字 五 反 畑	大 門 食 堂	水 谷 福 江	三二八一
和 料 理 ・ 酒	上 傳 馬 町	第 二 サ ロ ノ ツ ル	清 水 梅 太 郎	二一八五
辨 當 ・ 飲 食	草 間 町 上 原		兵 藤 香 一 郎	二四三九
仕 出 し ・ 鰻 料 理 ・ 料 理	松 葉 町	山 喜 知	鈴 木 吉 太 郎	二四三九
仕 出 し ・ 料 理 ・ 壽 司	札 木 町	港 ザ し	鈴 木 勝 義	二九九七
和 洋 料 理	荳 町	三 福 食 堂	鈴 木 嘉	二二〇六
壽 司	松 葉 町	す し 兼	杉 山 兼 次 郎	三四三七
洋 食 ・ 壽 司	札 木 町	借 樂 亭	合 名 會 社 借 樂 亭	二五八三
和 洋 料 理	花 田 町 字 西 宿		株 式 會 社 豐 橋 大 門	三〇〇六

21

鰻 料 理

鰻 料 理 ・ 料 理	札 木 町	③	中 山 要 吉	二七四五
同	上 傳 馬 町	青 木 屋	青 木 吉 郎	五二八九

鰻 料 理 ・ 料 理	松 葉 町	山 喜 知	鈴 木 吉 太 郎	二四三九
同 ・ 驛 構 内 立 賣 業	花 田 町 字 西 宿	壺 屋	合 資 會 社 壺 屋 辨 當 部	三三〇七

22

西 洋 料 理

西 洋 料 理 業	松 葉 町	公 園 食 堂 支 店	稻 垣 隆 雄	四二九二
同 ・ 牛 豚 肉	同 町	花 井 一	花 井 與 市	二七四九
西 洋 料 理 ・ し る こ	吳 服 町	大 手 し る こ	新 村 武	四四六七
同 ・ う ど ん	西 小 田 原 町	成 瀬 食 堂	高 木 喜 市 郎	五二三三
同	東 田 町 字 五 反 畑	吾 妻 亭	中 山 や い	二六一六
同	札 木 町	森 永 喫 茶 店	中 神 東 一	四八〇三
同 ・ 料 理 業	東 田 町 字 五 反 畑	北 濱 屋	山 本 留 松	三四二六
同	同 町	榮 屋	古 林 元 意	二三七五
同 ・ 牛 豚 肉	旭 町 字 旭	櫻 湯	古 橋 朝 次 郎	
同	本 町	光 富 久	小 倉 林 節	四六四一
同	上 傳 馬 町	富 士 朝 倉 伸 一		四九一九

西洋料理	松葉町	山喜知亭	芦原秀吉	四一三三
同	同	喜松亭	坂下喜治郎	四〇〇三
同	花田町字西宿	有樂軒	樋口常松	二三三二
同	同	吉田食堂	盛山仁吉	四七七八
同	新錢町	喜樂支店	杉田いち	四七七八
同	札木町	借樂亭	合名會社借樂亭	二五八三 三七五九 三七七九 三〇〇六
和洋料理・喫茶・土産品	花田町字西宿	大門	株式會社豐橋大門	三〇〇六

23

食料品・洋食器

食料品・罐詰製造	北島町	東亞	東亞食品株式會社	四四七三
洋食料品・食器	札木町	合資會社伊藤菊次商店	合資會社伊藤菊次商店	三五一五
同	魚町	合資會社山安食料品店	合資會社山安食料品店	四一五三
食料品	札木町	合資會社水野商店	合資會社水野商店	二三〇六
食料品冷凍業	花田町字池田	日本水産鐵豐橋冷凍工場	日本水産鐵豐橋冷凍工場	二五四八
煉乳製造	植田町字八尻	中央製乳株式會社	中央製乳株式會社	五五二四

24

餛飩・蕎麥

餛飩・蕎麥	船川崎屋	岩瀬しず	四六三八
同	松葉町	勢河新美和儀	三三六〇
同	神明町	東京庵戸倉とつ	三四四四
同	花田町字石塚	菊屋鳥居市五郎	三六二三
同	湊町	千樂小野田源次郎	四八一九
同	札木町	喜ノ字太田喜平	二六一五
餛飩・蕎麥・酒場	西小田原町	成瀬食堂高木喜市郎	五二三三
餛飩・蕎麥	花田町字西宿	濱松屋田中勘太郎	二九一九
同	東田町字五反畑	大黒屋倉橋相吉	二八一五
同	同町字西脇	山傳岡傳十	四九八五
同	松葉町	三河屋山本多内	三七三四
同	花田町字西宿	みうらや八木丈治	五五三〇
同	松葉町	玉川屋眞野圓重	五五三〇

五三

五二

第二類

纖維商工業・被服・同材料及附屬品
裝身具・染色

第二類 纖維商工業・被服・同材料及附屬品・裝身具・染色

1 繭問屋

營業種目	住所	商號	氏名・名稱	電話番號
繭問屋	荳町	Ⓣ	伊藤 條藏	三二七五
同	本町	◆	今泉 美登	二三二五
同	松葉町	㊦	今井 富郎	四〇〇七
繭絲問屋	吉屋町	①	石田 源四郎	二〇六三
同	松葉町	Ⓚ	石塚 晴久	二八三九
繭問屋	花田町字大塚		岩田 準一	
繭絲問屋	手問町	㊥	西川 藤四郎	五四三六
繭問屋	指笠町	㊦	織田 龜次郎	五三一四
同	上傳馬町	Ⓛ	小野 彌六郎	二三三三
同	同	㊧	小栗 桂助	三七四四
同	松葉町	㊨	小栗 慶治郎	三六一七

繭	乾繭	繭	繭	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	繭
絲	姿託販賣	問	絲											問
問	屋	屋	屋											屋
本	花田町字石塚	荳	本	花田町字西宿	札木町	同	荳	花田町字稗田	荳	札木町	東小田原町	本	關	中柴町字道六
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
正	◆	△	△	眞	〇	①	分	①	◆	可	余	田	松	八
						岩賀商店								
河合	豐橋乾繭委託株式會社	合資會社	合名會社	蠶絲周旋株式會社	豐橋繭糸合資會社	鈴川萬造	正田嘉一郎	目賀博	澤田龜藏	朝倉東一	不破智藏	藤田權次郎	松澤金松	谷中秀吉
合名會社	入山二繭問屋	山本商店												
三六五〇五	四六七七	四八九〇一	四九〇一八七	二二〇二〇三〇	二二二〇二	二二七二	三三一五	四一七三	二八四〇	二五七七	二九七一	五〇九二	五〇九二	二二六二

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	繭
															問
															屋
關	札	花田町字稗田	同	指	吉	西小田原町	關	荳	關	西小田原町	東新町	花田町字西宿	同	松	
屋	木	町	町	笠	屋	町	屋	町	屋	町	町	町	町	葉	
町	町	町	町	四	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	
④	可	△	◆	◆	⑤	①	⑥	△	五	③	③	伏	天		
									鈴余						
山岡精一郎	倉橋正雄	梅田豐一	六峰秀雄	中川貞三	永岡英樹	根木德一	國部秀作	谷守次吉	余郷山太郎	龜井周助	川口航三郎	河合與平	大谷輝吉	大竹直二	
五一〇六	二六五一	二七二三	五一四四	三六一三	四五四八	四七〇四	四七一	四五〇五	三九四四	四一七六	五四二六	五一七四	五一六八	四〇七五	

生絲・玉絲問屋

同	同	同	同	生	玉	同	生	玉	同	同	同	生
同	同	同	同	絲	絲	同	絲	絲	同	同	同	絲
同	同	同	同	問	問	同	問	問	同	同	同	問
同	同	同	同	屋	屋	同	屋	屋	同	同	同	屋
同	松	同	萱	關	三	吉	松	指	吉	同	松	本
同	葉	同	屋	屋	浦	屋	葉	笠	屋	同	葉	町
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
△	㊦	㊧	㊨	㊩	㊪	㊫	㊬	㊭	㊮	㊯	㊰	㊱
合資會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社
近藤商店	丸夕田中生絲店	山二關口商店	山本商店	河合合名會社	杉本博之	鈴木義一	宮田健一	宮野和一郎	鹽野定雄	天谷孫吉	近藤銀一	福井光夫
二九一三八	三九一八	四八六二	四八六二	二八〇一八	二五五	四〇五四	二五六九	四一七四	三六五九	三五一三	二一六	二二六三

同	生	生	同	同	同	同	同	同	同	同	同	生
同	絲	絲	同	同	同	同	同	同	同	同	同	絲
同	問	玉絲問屋	同	同	同	同	同	同	同	同	同	問
同	屋	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	屋
本	松	萱	同	本	曲	指	本	萱	新	本	松	同
町	葉	町	町	町	尺	笠	町	町	川	町	葉	町
町	町	町	町	町	手	町	町	町	町	町	町	町
△	㊦	㊧	㊨	㊩	㊪	㊫	㊬	㊭	㊮	㊯	㊰	㊱
合資會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社	合名會社
近藤商店	丸夕田中生絲店	山二關口商店	山本商店	河合合名會社	杉本博之	鈴木義一	宮田健一	宮野和一郎	鹽野定雄	天谷孫吉	近藤銀一	福井光夫
二九一三八	三九一八	四八六二	四八六二	二八〇一八	二五五	四〇五四	二五六九	四一七四	三六五九	三五一三	二一六	二二六三

3

乾繭取引員

乾繭取引業	指笠町	①	石田源四郎	四三六六一三
同	花田町字石塚	父	小野田又七郎	二二七七四一三八
同	同	⑤	奥村鹿太郎	三五五三三〇
同	花園町	④	加藤直吉	四一五六
同	松葉町	命	塚嶋俊太郎	二二四七〇一八
同	同	命	中林登平	二二〇六五四八
同	本町	命	山本輝次	二二〇八一七
同	松葉町	松	松橋二藏	五五〇四七二
同	西八町	三	後藤常藏	二三〇四六〇九
同	花田町字石塚	安	安間忠作	四二〇三八七
同	同	七	鹽瀬	三六三五
同	同	三	關口	四二八九〇一
同	同	壽	杉浦篤次	五五二〇七

4

製絲業

乾繭取引員	花田町字石塚	石	株式會社石橋商店豐橋營業所	二四四九
同	同	命	豐橋乾繭委託株式會社	四六七七
同	同	ヤ	株式會社丸ヤ商店	五四〇六九〇
生絲製造	花田町字大山塚	井	井波喜代治	四九九三
同	同町字大塚	藤	伊藤藤次郎	二二六八七四
同	向山町字中畑	三州石川組製絲場	石川躰次郎	二二六八七四
同	花田町字野添	之	稻垣熊吉	三〇七五
同	舟原町	今	今泉幸太郎	五〇五七
同	花田町字築地	今	今泉新四郎	二八〇六
同	同町字五丁	二六社	井上善助	四三五四
同	北島町	井	井坂重太郎	二九四一
同	前田町	同	池田常平	六五

【生絲ノ部】

生絲製造

花田町字百北
同町字南新起
小 噺 町
下地町字西
花田町字後田
同町字築地
瓦町字臨濟寺前
花田町字五丁
同 町
同町字百北
同町字五丁
同町字堀先
同町字野黒
三ツ相町
向山町字大池

玉絲製造

⑩ 田中重作 三八四〇
⑨ 田中勝造 三三四五
⑧ 國部彌作 五三四五
⑦ 國部藏 五三四五
⑥ 日登館 五三四五
⑤ 中村辰太郎 五三四五
④ 長永梅次郎 五三四五
③ 中村新助 五三四五
② 長坂廣一 四九三七
① 中川彦三郎 四九二四
① 夏目山太郎 四九二四
① 村田博 四一三三
① 氏原助造 四三八八
① 宇藤菊三郎 四四七五
① 久保田和 四四七五
① 黒柳宗七 二九一〇
① 黒柳宗七 五二四五
① 黒柳宗七 三七八六

生絲製造・金錢貸付

東新町
菰口町
同 町
花田町字築地
北 島 町
同 町
花田町字八剣
東 新 町
花田町字稻場
瓦 町 字 通
花田町字築地
東 新 町
花田町字稻場
下地町字東
向山町字大池

⑩ 山本績二 二四一八
⑨ 山口要作 三六三二
⑧ 福井小作 五三二九
⑦ 福井爲治郎 五四三四
⑥ 福井徳太郎 三〇一一
⑤ 福井廉次 二六八六
④ 福井唯次 四四〇三
③ 藤原五郎 五五六八
② 藤田房吉 四九三二
① 近藤末吉 四六三四
① 近藤正衛 四六三四
① 小林義衛 四六三四
① 小久保吉藏 四六三四
① 寺部隣二 四六三四
① 青木郡平 四七三〇

生絲製造・玉絲製造

同 前田南町
同 向山町字傳馬
同 北島町
同 花田町字野黒
同 同町字堀先
同 同町字八通
同 菰口町
同 前田南町
同 花田町字流川
同 同町字五丁
同 東新町
同 北島町
同 花田町字堀先
同 下地町字東
同 花田町字南島

舎 三 ④ 令 令 伊 三 礪 礪 目 合 昭 介 八〇
中野工場
花田工場
糸徳第三工場
昭和組

浅井義雄 三六一四
佐藤金一郎 五五二八
佐久間松太郎 四八九八
佐原封吉 五四九五
水野浦治 四二二八
水野敏雄 三〇五二
水野清 四九八一
白井經次 三六六五
白井小十郎 二五一一
白井朝次 五五七八
柴田小太郎 三〇四三
柴田五郎 五五六〇
柴田鎌太郎 二七五八
柴田喜代二 三四一五
清水俊一

生絲製造

同 花田町字池田
同 下町
同 花田町字西郷
同 小暖町
同 瓦町
同 吉田町
同 花田町字堀先
同 向山町字大池
同 菰口町字三海津
同 新川町字市南
同 花田町字中郷
同 同町字中郷
同 下地町字豊麻
同 山田町字西山
同 野田町字野田

中 竹 子 辰 廣 行 上 金 到 西 大 引 福
廣增館

清水熊太郎 二九〇四
廣中賢治 五〇六三
廣中辰太郎 四三六七
廣田辰雄 四四八九
廣田増吉 三六九一
彦坂竹治 三六九一
彦坂かすへ 三六九一
平尾彌藏 四四一一
久松庄太郎 四四一一
鈴木留吉 四四一一
鈴木松太郎 五四八二
鈴木泰助 三五二七
鈴木磯太郎 二六七九
鈴木榮一 二六七一
鈴木福松 五三六五
鈴木福松 四一一二

生絲製造

同 向山西町
 同 吉田町
 同 花田町字百北
 同 同町字齋藤
 同 同町字野添
 同 同町字五丁
 同 同町字築地
 同 同町字百北
 同 三ノ輪町字白山
 同 花田町字野黒
 同 同町字後田
 同 同町字南新起
 同 同町字野添
 同 東田町字西郷
 同 花田町字池田

因 太 國 又 耕 冥 父 父 杉 杉 杉 杉 杉 杉 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴

鈴木米吉
 鈴木つま
 鈴木國三郎
 鈴木伊作
 鈴木耕作
 杉浦晃一
 杉浦助太郎
 杉浦房太郎
 杉浦三津次
 杉浦萬吉
 合資會社丸羽大羽製絲場
 合資會社丸石石黒製絲場
 合資會社曲文製絲場
 合資會社堀田製絲場
 株式會社共立社

生絲製造

同 花田町字小松
 同 同町字五丁
 同 同町字西郷
 同 同町字平呂海邊
 同 同町字大塚
 同 同町字五丁
 同 舟原町
 同 花田町字流川
 同 同町字塞神
 同 北島町
 同 花田町字百北
 同 同町字堀先
 同 東新町

【玉絲ノ部】

五 大正館
 五 合資會社丸五組製絲所
 合資會社山竹組大正館製絲所
 合資會社金杉製絲場
 合資會社白河館製絲場
 合名會社内藤製絲場
 合資會社曲五村田組製絲場
 合資會社丸合河合製絲所
 合資會社昭和組小久保製絲場

池田與吉
 大林正志
 大林彌之助
 小原幸一
 小原精一
 金子厚司

玉絲製造

小暖町

子

金子義人

三三四三

同

菰口町

高

高橋善治郎

二八四三

同

花田町字大塚

三

宇藤金藏

三四三八

同

同町字手棒

上

小松德三郎

二三六四

同

同

岩

後藤秋次郎

二五五六

同

前田南町

舍

淺井義雄

三六一四

同

花田町字大塚

下

柴田げん

二七〇六

同

同町字松山

中

清水壽一

四七四一

同

小池町字安海戸

源

鈴木木動

四四〇八

同

北島町字北島

十

合名會社丸十内藤製絲場

二八二五

同

前田南町

三

三丸合資會社旭館製絲場

二五〇三

同

舟原町

合

合資會社丸合河合製絲所

三〇〇三

生皮苧

東小田原町

分

今泉榮

屑繭・生皮苧

(副蠶絲)

6 再整絹絲製造

再整絹絲製造

生皮苧

花田町字稗田

山

西野章八

五五七三

屑繭・生皮苧

東小田原町

示

堀多四郎

三二一七

同

花田町字稗田

刃

河合武夫

四六一一

生皮苧

同

三

小松儀作

三九三〇

同

同

福

福田愛三

二二七四

同

西小田原町

利

清水利一

四〇一五

屑繭・生皮苧

花田町字稗田

三

日比理吉

三〇五四

同

東小田原町

正

杉山鐵郎

二八五九

生皮苧

同

上

鈴木秀太郎

五四三一

同

神明町

司

鈴木芳太郎

三五〇六

絹紡原料・毛羽・生皮苧

花田町字西宿

羽

合資會社小柳津商店

四二五七

手屑・蛹加工業

同町字大塚

羽

合資會社岡本商店

二三五五

再整絹絲製造

前田町

舍

伊藤治吉

二五七三

再整絹絲製造

花田町字流川

飽海町

中世古町字中世古

同町

花田町字築地

中柴町字中柴

花田町字大山塚

瓦町字臨濟寺前

花田町字大塚

同町字百北

舟原町

花田町字八通

東新町

花田町字齋藤

同

市橋理三郎

岩谷条吉

井口末治

早川九平

本多佐太郎

小川鹿三

小野一男

影山伏太郎

神谷唯一郎

龜田唯雄

中野品男

夏目傳

村雪藤一

鵜飼みな

熊澤鏘次郎

五二二三

四一〇九

四一五八

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

五一八〇

再整絹絲製造

花田町字齋藤

旭町字旭

花田町字中郷

同町字大塚

同町字堀先

牟呂町字八王子

花田町字齋藤

中柴町字道六

前田南町

花田町字石塚

同町字野添

同町字南新起

同町字後田

北島町

山

松

松

前

前

小

近

朝

彦

彦

小

菅

菅

山

山本直次

松永光一

松永光一

前田公太郎

小林武雄

近藤米市

朝倉祐一

彦坂茂

彦坂茂

小坂吉

菅下圭太郎

菅下圭太郎

鈴木喜一

合資會社本多製絲場

四四三四

三〇八八

二五〇七

三四八七

二六四四

二六四四

五五二三

五五二三

五五二三

四八二七

四八二七

四八二七

四八二七

四八二七

麻真田製造・麻絲連續

7

同 麻真田製造
 同 中柴町字道六
 同 吉田町
 同 花田町字西宿前
 同 中世古町字中世古
 同 神明町
 同 鍛冶町
 同 南榮町字蟹原
 同 旭町字旭
 同 東田町字齋兵
 同 西小田原町
 同 同
 同 前田南町
 同 船
 同 花田町字大塚
 同・セロファン織物業 柳生町

市川三代吉 三四五六
 岩瀬重次郎 三七七七
 磯村定一 四一五八
 早川九平 三二七七
 花井泰治 五五六九
 富田稔 三三五八
 大竹順平 四四九一
 尾崎憲三 四五一九
 河合紋七 三三五六
 中村才次 三三五六
 中村榮吉 四四九一
 永井實一 四五一九
 永田源一 三三五六
 山本乙二 三三五六
 松井清市 四九〇二

同 麻真田製造
 同 花田町字齋藤
 同 東小田原町
 同 吉田町
 同 中柴町字道六
 同 東小田原町
 同 關屋町
 同 西小田原町
 同 東新町
 同 橫須賀町
 同 花田町字東郷
 同 前田町
 同 花田町字石塚
 同 神明町
 同 小畷町
 同 同
 同 神明町

牧野鎌吉 五三五五
 藤井理一 三六一九
 藤井喜太郎 五五七五
 藤井喜六 四六五三
 小林太市 三五五五
 清川仲二 四八九七
 白井隆次郎 三九一七
 柴田弘治 三九一七
 齋藤六二 三九一七
 日比一六二 三九一七
 森田正郎 三三〇六
 鈴木精太郎 二九七九
 曲七合名會社 四九〇七
 合資會社金澤商店 五五一七
 合資會社山中商店 二六四七
 合資會社彦坂商店 二八六五

麻絲連續	花田町字南島	伊藤常治	二七九〇
同・セロファン卷	小 暇 町	大 林 和 一	三二八七
同・壘堅絲製造	南榮町字蟹原	大 羽 藤 太 郎	三二八七
同・材 木	東田町字北 <small>臨濟寺</small>	山 本 仲 次	
壘絲製造販賣	淡 町	松 井 博	
麻絲連續	花田町字稗田	白 井 艷 次	四六四七
同・再整絹絲製造	西 新 町	鈴 木 盛 一	四一〇九
同	中世古町字 <small>中世古</small>	井 口 末 治	五五三九
麻 屑	北 島 町	伊 東 銀 次 郎	四四四六
同	東小田原町	榎 本 久 作	二六八一

8
絲類・ガラ紡・燃絲

各種絲類	魚 町	渡 邊 金 七	二三五六
同	新川町字新錢	仲 井 新 一	
ガラ紡商	横須賀町	齋 藤 一 三	二六三〇
各種絲類	魚 町	齋 藤 丹 次	四七三四
人絹燃絲業	三ノ輪町字 <small>本興寺</small>	田 中 郁 造	五三四〇
生絲燃絲業	北 島 町	中 野 真 助	三八二五 <small>(C)</small>
人絹燃絲業	東小田原町	谷 中 八 十 吉	三八八三
同	三ッ相町	佐 野 林	二二〇九
同	北 島 町	水 野 榮 三 郎	二四四八
同	花田町字松山	鈴 木 實 治	四三三一
綿燃絲業・漁網	松 坂 町	福 井 武 二	三三五七
同	山 田 町	淺 野 重 藏	五四八五
同	牟呂町字東脇	森 田 勳	
同	花田町字西宿	合資會社 三井商店	
燃絲業	前 田 町	東海燃絲合資會社	

撚 絲・織物製造

同 向山町字中畑
牧野町字牧野

9 紡績業

紡績業 大清水町

富士瓦斯紡績株式會社 豐橋工場 五一〇七

10

綿・眞綿・蒲團・蚊帳

眞綿 花田町字城海津

絹綿・蒲團・絹紡絲 吉田町 豐橋眞綿加工所

綿・絹綿 新川町字市南

眞綿 花田町字西宿

綿 新川町字新錢

蒲團・蚊帳 花園町

同・吳服 魚町

綿・蒲團・蚊帳 指笠町

株式會社豐橋絹織工場 二二六八七四

中央撚絲合資會社

岩脇七右工門 豐 五二三九

羽田米造 二二三七

原米造 松 五二一五

堀林秀吉 三四三九

大邊久男 三九五二

金子米三郎 四三三三

加藤彌助 三六一八

綿・蒲團・蚊帳

眞綿 吉田町

同 花田町字西宿

同 同

ガ ラ 紡 花田町字野黒

眞綿 同町字西宿

同 同

蒲團・蚊帳 本町

蒲團 松葉町

眞綿 新錢町

蒲團・蚊帳・株式 花田町字松山

綿 花・ガ 東小田原町

綿 手間町

同・眞綿 花田町字流川

蒲團・太物 魚町

支店

今 加藤彌之助 三六一八

今 吉田増次郎 四三三三

念 高倉榮助

念 高倉忠助

念 夏目芳雄

念 鍋田竹治郎

念 山脇徳造

念 安藤伊三郎 五一四八

念 安藤昇一

念 安食小一郎

念 青島忠助 三四〇六五〇九

念 淺井代作

念 佐野三代太郎 四〇二三

今 北川龍一 四二一五

今 鈴木ヨシエ

眞綿・蒲團 花田町字狭間 ④
 同 花園町 ⑤
 合名會社加藤秀次郎商店 二八二九
 株式會社加藤綿行 五四九六九

11

絹 綿

絹綿・蒲團製造 吉田町 豐橋眞綿加工所 羽田 豐 五二三九
 絹綿商 下五井町字宮後 大森顯一郎 三七九四
 同・製綿 新錢町 ⑥ 株式會社加藤綿行 四九六九
 同・絹紡絲・ガラ紡絲 吉田町 豐橋絹綿株式會社 四八一六

12

吳服・太物・モスリン

太物・ネル 新川町字新錢 ⑦ 伊丹金次郎 五三八〇
 既製吳服・太物 花園町 三島屋 市川信一郎 五〇五四
 吳服・同 手間町 林多竹 本多悅次 臣 三六八一
 モスリン 札木町 富安正男 三五三九
 吳服・太物 花田町字城海津 ⑧

吳服・太物 中八町 大末吉 助
 同 魚町 岡本善治 助
 同 牟呂町字市場 みどりや 岡田雄 助
 同 中柴町字中柴 ① 河合 潤 助
 同 手間町 ① 河合 達 助
 同 東田町字北臨濟寺 ② 河合儀一 郎 助
 同 魚町 金子米三 郎 助
 同 花田町字城海津 ③ 神谷勇吉 助
 同 吳服町 大谷屋 神谷浩太 助
 同 牟呂町字市場 谷山徹太郎 助
 同 新川町字市南 ④ 谷山末吉 助
 同 花園町 岩榮屋吳服店 田中 吉 助
 同 同 田中屋 田中 岩 吉 助
 同 洋品雜貨 同 田中屋 田中 平 六 助
 同 太物 新錢町 德榮屋 高田中德 惠 助
 同 新川町字市南 松屋 高須次 助

洋品部 三三二
 雜貨部 〇八六
 〇六一
 六六六
 七八六

太	同	同	吳	太	吳	太	同	同	同	吳	太	吳	太	吳
物		蒲團商	服・太物	物・子供初着	服・太物	物				服・太物	物・ネル	服・太物	物・毛絲・風	服
荳	花田町字城海津	魚	中柴町字中柴	吳服町	上傳馬町	花園町	札木町	松葉町	旭町字餌指	松葉町	同	花園町	新川町字新錢	新錢町
刃	面	西川屋	九豐商店	武大黒屋第三支店	本多屋	秋田屋	傘	霖		新田中屋	全伊勢屋	全	木本商店	梅屋
合資會社	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	杉浦	森田	白井	庄田	三浦	木島	木本	柳原
曲久寺島商店	木・ヨシ	木・ヒ	木・豊太郎	木・武	木・晋	木・新	浦安	田末	井哲	田末	浦常	島喜	本丑	原く
三〇七三	四二一五	二七三六	二一一一	二七五三	二一三一	五五五七	三九二七	三三四五	五一四七	三七三二	五三四三	五三四三	五三四三	五三四三

吳	モ	吳	絹織物	同	同	同	同	同	吳	同	モ	太	モ	吳
服・太物	スリ	服・太物	物・其	物	衣服店	太物	太物	太物	服・太物	物	スリ	物・雜品	スリ	服・太物
魚	本	魚	本	指笠	札木	同	花園	魚	旭町字旭	同	花園	下地町字東	花園	東新
町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町	町
井	八	玉	△	善	△	△	△	真	モ	水色	大	圓	十	
坂	佐	佐	近	小	藤	松	牧	真	山	山	野	内	中	津
本	藤	藤	藤	島	井	橋	野	木	崎	崎	田	山	神	田
猪	五	嘉	善	善	德	謙	謙	真	權	房	義	初	惠	逸
平	市	吉	勝	三	十	疇	三	一	平	治	延	雄	助	次
四六一四	三〇二〇	二五一六	二一一五	四七八二	三二四九	五二八〇	三七三九		四〇六七	四六二五	四二七八	三六〇七	五四三五	五四三五

吳服・太物

花園町

合名會社 マスヤ吳服店

二四三三

八八

13

織物・加工・漁糸・紐網

織布
麻・セロファン織物
セロファン織物
セロファン加工業
セロファン織物
紙紐・紐製造
セロファン織物
織布・平紐製造
麻糸・疊糸・堅糸製造
セロファン織物
麻・眞田物
毛織物
絹織物

南小池町
前田町
北島町
新錢町
花田町字東郷
船町
舟原町
菰口町
東田町字北臨濟寺
柳生町
花田町字手棒
北島町

金がわや

吉福井織業所

伊與田庄太郎 三六四九
加茂政雄 二一八四
渡邊亘理 三五二二
竹本定吉 五五二二
日比一 二六〇三
永田源一 三四七六
宇佐美昇二郎 四九〇二
山田庄次郎 三三七一
山本仲次 二二一四
松井清市 二二一四
廣中治三郎 二二一四
福井鹿次 二二一四

莫大
タオル製造業
漁網・綿撚糸
漁網製造
疊糸製造
漁網
ダイヤテーパー
セロファン紐製造
漁網
繭毛羽製羅紗
織布・消防服製造
織物製造・撚糸
絹・綿織業
漁網・麻苧・ロープ
漁網製造業
セロファン加工
同層加工

東八町
東田町字北臨濟寺
松坂町
舟原町
花田町字稗田
同町字西宿
本町
花田町字寺東
鎌田町
向山町字中畑
前田南町
花田町字西宿
新川町字新錢
關屋町

金

介

八

太

松井卓二 四五七四
佐原金一 四三三一
福井武二 三三一
淺野善次郎 三八五四
白井善次 二二一四
三浦善三 二二一四
白井遼一 二二一四
鈴木木綱男 二九二八
株式會社 市田商店 二二五七
株式會社 豐橋絹織工場 四七二六
株式會社 丸八織布工場 五四八五
合資會社 三井商店 二二四四
合資會社 網太山本安太郎商店 五一三五
合資會社 ミスズセロファン商會

14

和服・ミシン裁縫

八九

洋傘・ショール	魚	久	鈴	九六	二九三五
足袋	神明町	カネマン支店	鈴木三郎		
洋品・雑貨	小池町字角田	正直屋	鈴木直三郎		四四五四
同・米穀	花田町字稗田	住吉屋支店	鈴木清次郎		
同・雑貨	魚	イブキヤ	杉浦才次郎		五三八一
同	旭町字旭		杉浦多一郎		
メリヤス・雑貨	新銭町	余	杉山宗太郎		五五七四
洋品・同	魚	ツタヤ	合名會社ツタヤ洋装店		四四七一

18

化粧品・小間物

小間物・雑貨・苺	東田町字五反畑	舟織屋	伊藤大吉		四八二六
化粧品・雑貨・文房具	下	中金屋	今井金作		五二六四
化粧品・小間物	新銭町	一越	市川哲雄		四三〇八
同	中柴町字中柴	石原屋	石原壽吉		五一七七
同	同	三越屋	石原信吉		

小間物卸商	荳	⊙	渡邊菊太郎		四八一四
小間物	東田町字齋兵	ハイカラヤ	大木とよ		
同・化粧品	花田町字城海津	キゲンヤ	大島馨		
化粧品・小間物卸	指笠町	新	加藤新吉		四一八
化粧品・小間物	魚	片野金次	片野金次		二二六六
小間物	湊	川部よ	川部よ		三〇一七
同・百貨	松葉町	河合太郎	河合太郎		
同	魚	蔭山九郎	蔭山九郎		
化粧品・小間物	松葉町	辻村美さ	辻村美さ		
化粧品・小間物卸	指笠町	中村屋	中山安吉		五一六九
化粧品・小間物	手間町(松竹館通)	フジヤ	内藤三藏		四〇二七
同	瓦町通	今	植原信男		三六三八
同・太物・雑品	下地町字東	圓	内山初雄		
化粧品・小間物	本町	キゲンヤ北店	藤城あ		

小間物・軍用品	中八町	ミツワヤ	藤倉吉之助	四八三七
同	北島町	キゲンヤ	山本壽一	四九一三
同	神明町	藤村屋	小坂博次	三九六一
同	花田町字西宿	近藤邑二	小島博次	三九六一
同	西新町	宮道教次	近藤邑二	三九六一
同	花田町字五丁	社本みつ	宮道教次	三九六一
化粧品・小間物	新銭町	白井邦雄	社本みつ	三九六一
石鹼製造	舟原町	森下長太郎	白井邦雄	二五七五
化粧品・小間物	西八町	鈴木幸吉	森下長太郎	二六四二
半襟・洋裝品	吳服町	鈴木常七	鈴木幸吉	二六四二
小間物・化粧品・苧	花園町	鈴木和	鈴木常七	二六四二
同・荒物・雜貨	紺屋町	合資會社 藤原商店	鈴木和	四三三三
化粧品・小間物卸	札木町	合資會社 坂田屋本店	鈴木和	三九二五
同	花田町字西宿			

19

袋物・眼鏡

繭袋・綿布袋	花田町字南新起	倉木良夫	鳥居鹿三郎	三九三四
眼鏡	同町字西宿	山本玉治	倉木良夫	五五六三
袋物・毛絲・絹刺材料	吳服町	古澤準一	山本玉治	五四七五
袋物・絹刺材料・靴	紺屋町	佐野政次郎	古澤準一	二七五六
袋物・眼鏡	札木町	河合佐渡次	佐野政次郎	三九六六
袋物製造	花田町字稻場	杉浦實	河合佐渡次	五〇八九
同	札木町			

20

鬘製造

鬘	指笠町	村田晴次		三〇三九
---	-----	------	--	------

21

靴・鞆・馬具・軍用雜貨

靴附屬品	吉屋町	伊藤藤次郎		五四七四
鞆・馬具	小池町字角田	大野鎌次郎		五四七四
絹草製造	吉田町	金澤虎次		五四七四

三共絹草工業所

履物 曲尺手町 傘 鈴木政五郎 一〇四
 下駄製造 花田町字守下 合名會社 鈴木屋商店 四〇〇六

23 古着

古着・呉服・太物 花園町 三島屋 市川信一郎 五〇五四

同 松葉町 宇津之家 中島章三

同 指笠町 梅田虎吉

同 新錢町 山田孫一郎

同 金錢貸付 新川町字新錢 鈴木商店 白井一三

24 國旗・提灯

提國旗・和裝飾用品傘 曲尺手町 西郷善吉 三〇二四

25 染物・洗張・悉皆・消防服

染物 指笠町 丁字屋 林來助 五二〇八

染物・洗張・悉皆 旭町字旭 岡田屋 岡田丞太郎 四〇六〇

同 新錢町 大黒屋 河合正二

同 曲尺手町 川瀬進

染物 東田町字西脇 朝河勇次

染物・洗張 新川町字市南 鈴木耕一

印染專門 中柴町字道六 杉江喜平 四三〇六

印染消防服製造 鍵田町字橋詰 株式會社 市田商店 二九二八

26 百貨店

百貨店 清水町 株式會社 丸物豐橋支店 四六三九
 花園町 株式會社 松坂屋豐橋出張所 三九五五

第三類

油・藥・染料・塗料・燃料・鑛製品・建築材料
木材・石材・折箱・線物・木管

第三類 油・藥・染料・塗料・燃料・鑄製品・建築材料・木材・石材

1

油類

營業種目	住 所	商 號	氏 名・名 稱	電 話 番 號
油・石 油	松 葉 町	豐橋米油商會	野 村 八 郎	二九〇三
同・砂 糖	新川町字新錢	米 代	中 村 代 助	二九〇九
同・肥料・雜穀	下地町字豐麻	全	山 本 高 太 郎	二〇五二
油 類	關 屋 町	二明商會	澤 野 計 之 助	二〇二〇
同	下 町	佐野屋	佐 野 菊 次 郎	二四〇三
同・砂 糖	船 町	本	榎 本 民 平	四一三
油 類	中柴町字道六	本	鈴 木 近 太 郎	三四三三
同	小池町字角田	本	鈴 木 傳 治	二九五三
同・石炭・煉炭	花田町字西宿		株式會社鈴與商店豐橋支店	二三五八
米 油 製 造	北島町字高田		株式會社光明麥精麥所	二一八三
蛹油製造・飼肥料	牟呂町字扇田		ユタカ産業株式會社	三七八〇

硝子・電氣器具・板硝子	松葉町	◎	伊東信義	三四五四
板硝子・金物・度量衡	本町	岩田屋	石田守司	三三三三
硝子・電氣器具	旭町字餌指		戸田利三郎	三四五五
硝子	花田町字狭間		渡邊馨	三五八四
硝子器具	上傳馬町	◎	松井武	四五一八
硝子・カーバイト	本町	菊一屋	平石寅次	二三四二

6 左官材料・セメント・石灰

左官材料・セメント・石灰	花田町字稗田	◎	波邊政藏	三六八七
土砂販賣	東田町字東前山		神谷喜一	五二九五
左官材料・セメント・石灰	新川町字市南		宮本與吉	五四九四
同	西八町	金子商店	鈴木森平	二九〇六

7 石材・石材加工

石材・石材加工	花田町字守下		原田丈太郎	
---------	--------	--	-------	--

石材・石材加工	西小田原町	◎	谷山兼作	五三一六
---------	-------	---	------	------

8 陶磁器・硬質陶器

陶磁器	魚町	大黒屋	井上伊一	二六四六
同・金物	旭町字旭		西山義之	
同・タイル	吳服町	◎	内藤金平	二〇五八
瓦製	飯村町字西山	中彦	中村彦八	三六〇一
同	向山町字傳馬		永田彦治郎	四五八四
瓦・煉瓦・土管	關屋町	紙金	久保田定明	
陶器・タイル	花田町字守下	大津屋	倉橋繁治	三〇五七
同	松葉町		野尻辰巳	
土管・薪炭	磯邊下地町		提髮末市	
煉瓦製造	西口町字土橋		坂本牧太郎	
瓦・建築請負	西八町		木和田兼藏	五一〇二
衛生硬質陶器製造	花田町字築地	◎	株式會社 豊橋製陶所	四一六

9

竹

竹 新川町字市南 竹 繁 加藤 利治 二六四一

同・薪炭 西新町 今竹 作宮野 あさ 二〇八四

同 西八町 尖 白井 淺治 郎 五三九五

竹材商 花田町字東郷 神藤 鎌治 兵藤 淺次郎

竹材 同町字流川

10

木材・製材

材 湊町 新 伊藤 與市 四九二八

同 白木・材木・銘木 西八町 岩原 信次郎 五二〇四

製材 北島町 岩月 彌太郎 助 二五三〇

白木製材・建築請負 船 泉兵 花井 金之助

製材 湊町 泉兵 花井 縫市 四四二三

材 東田町 原田 政平 四九〇六

同 花田町字城海津 林 俊三 四六三三

同 瓦町 林 菊元 四三一二

同 菰口町字雨田 西土 繁次 二四六八

同 花田町字築地 本多 佐一 郎 三九〇二

同 湊町 大山 長平 二四五三

同 同 太田 安造 弘 二五四四

同 關屋町 小野 田彌三 郎 五〇八七

材 白木・ベニヤ板・銘木 板喜 太田 安造 六 四九三九

同 下地町字豊麻 糟谷 源六 二二二八

同 牛川町 白利材木店 武田 利作 二五一一

同 湊町 高橋 友治 隆 二五一一

同 同 柳生町 田中 義雄 五五一五

材	製	同	材	製	同	同	材	板	製	同	同	同	同	材
木	材		木	材			木	商	材	板				木
花田町字城海津	下地町字豊岸	西新町	湊	花田町字流川	關屋町	湊	船	中柴町字道六	北島町	下地町字東	湊	船	前田町	同町字東
③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
鈴木佳三郎	森田辨次	疋田喜右工門	平松豊治	廣中慶六	澁谷熊次	白木春光	柴田豊次郎	宮原太作	佐藤多吉	坂柳宗平	阿部精一郎	寺部光太郎	近藤木平	小島廣吉
四八三四	五三六七	五四二一	三〇六〇	四二五八	二二二一	五五一六	三三六八	五四二三	三二二七	四二一四	四九九〇	四六七九		

材	同	細	製	材	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	材
木		丸	太	木	材	木	材	函	製	函	貯	貯	貯	貯	木
關屋町	神野新田町イノ湖	牛川町字南台	湊	同	關屋町	中柴町字道六	松葉町	下地町字見取	關屋町	北島町	天井板・座敷板材料	木	材	貯	木
⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝
鈴木米吉	鈴木莊平	鈴木萬藏	牛川製材合名會社	合名會社丸惣商店	合資會社丸キ材木店	合名會社高柳商店	合資會社丸お夏目材木店	合名會社大橋商店	旭製材合資會社	豐川貯木株式會社	東海木材工業株式會社	木	材	貯	木
五一四一	二八五三	二八五四	四七四四	四八九〇	三六一五	二二六五	二二五五	四三〇五	五一五七	五四二二					

木箱製造

木箱製造・製材 西小田原町 翁 都築秋治郎 五〇五一

木箱製造・製材

下地町字東

令

中村定治郎

二〇六八

同町字豊麻

申

中西源四郎

二二二五

同町字東

箱

鈴木清

四八〇八

菰口町

松

山本松藏

三三〇五

花田町字稻場

山本善三

山本善三

三三〇五

菰口町

近藤博文

近藤博文

二二〇五

同町

廣中豐吉

廣中豐吉

三二八五

同町

鈴木信太郎

鈴木信太郎

三二八五

北島町字北島

信

鈴木信太郎

三二八五

12 折箱製造

折箱製造

神明町

掛川屋

岡好一

三五七七

同

松葉町

折

松本勝一

二六七五

13 割箸

割箸

神明町

掛川屋

岡好一

三五七七

割箸製造

松葉町

箸

藤本純一郎

五三一九

14 桶・樽製造

桶製

松葉町

桶

武内勝次

四六二三

樽製

花田町字南島

樽

伊奈大次郎

二七〇七

同

同町字於樹木

樽

榑原秀太郎

四七七七

同

下地町字豊岸

樽

鈴木榮作

二七一〇

15 繰物・木管

木工・製絲機械業

管

日東木管工業社

飯谷幸太郎

二二〇五

同

舟原町

小柳津登貴次

二二〇五

繰物

中柴町字道六

山本治一

二二〇五

同

同町

近藤見次

二二〇五

同

西小田原町

志賀清一

二二〇五

同

吉田町

杉浦重雄

二二〇五